

平成 28 年度

佐 賀 大 学

学 生 募 集 要 項

— 推 薦 入 試 —



この学生募集要項は、経済学部、医学部、理工学部、農学部の4学部の推薦入試学生募集要項です。平成28年4月設置予定の芸術地域デザイン学部及び教育学部の推薦入試学生募集要項は、11月上旬頃の公表を予定しております。

佐 賀 大 学

試験実施日程等

－推薦入試Ⅰ－

－推薦入試Ⅱ－

推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない）

学部（学科）	経済学部 理工学部 農学部	医学部（看護学科）
願書受付期間	平成27年11月2日(月)～11月9日(月)	
試験日	平成27年11月27日(金)	平成27年11月28日(土)
合格者発表日	平成27年12月7日(月)	
入学手続期間	平成28年1月18日(月)～1月21日(木)	

推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）

学部（学科）	医学部（医学科）	理工学部
願書受付期間	平成27年11月2日(月) ～11月9日(月)	平成28年1月18日(月) ～1月25日(月)
試験日	平成27年11月28日(土)	小論文や面接等の 試験は行いません。
合格者発表日	平成28年2月10日(水)	
入学手続期間	平成28年2月15日(月)～2月17日(水)	

佐賀大学では、平成28年4月に芸術地域デザイン学部の設置及び文化教育学部の教育学部への改組を予定しています。このため平成28年度から文化教育学部の学生募集を停止し、芸術地域デザイン学部及び教育学部の2学部の学生募集を行う予定です。

なお、芸術地域デザイン学部及び教育学部の推薦入試学生募集要項は11月上旬頃に公表予定です。

I 芸術地域デザイン学部の設置並びに文化教育学部の改組予定について

佐賀大学は、地域創生の中核的拠点を目指し、平成28年4月に下記のとおり芸術地域デザイン学部の設置並びに文化教育学部の改組を予定しております。これら計画は、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果によって確定するものであり、変更があり得ます。

佐賀大学では、文部科学省に芸術地域デザイン学部の設置並びに文化教育学部の改組に関する次のような計画を提出しております。これらの設置・改組に伴い、文化教育学部国際文化課程、人間環境課程及び美術・工芸課程の学生募集を平成28年4月に停止します。

これらの計画は、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果によって確定するものであり、変更があり得ます。この入学者選抜要項に掲載する募集人員、出願資格・要件、入学者選抜方法及び選抜期日などはすべて予定です。詳細については、文部科学省大学設置・大学法人審議会の審査結果通知後、各学生募集要項で発表する予定です。

1 設置・改組計画

設置・改組前		設置・改組後（平成28年度）	
文化教育学部		芸術地域デザイン学部	
学校教育課程	90人	芸術地域デザイン学科	
国際文化課程	60人	芸術表現コース	55人
人間環境課程	60人	地域デザインコース	55人
美術・工芸課程	30人	計	110人
計	240人	教育学部	
		学校教育課程	
		幼小連携教育コース	25人
		小中連携教育コース	95人
		計	120人
		合計	230人

2 「芸術地域デザイン学部」の設置計画について

(1) 設置の目的

芸術地域デザイン学部は、「芸術を通じた地域創生のための人材」の育成を目的として設置し、地域社会において「芸術で地域を拓く人材」、国際社会で活躍する「芸術で世界を拓く人材」を養成するための教育を実施します。

そのため本学部は、これまでの60年の歴史を有する文化教育学部美術・工芸課程の実績に裏付けられた伝統を継承発展させ、個人の表現能力を重視していた教育から次元を転換し、マネジメントやセラミック、都市デザイン等の異なる要素を新たに加え、文化芸術を多面的、総合的に捉え、地域創生の方法論と実践の往還による教育を展開していきます。芸術を基盤として、人文科学、社会科学、そして自然科学の諸学問から学び、さらに実践的な能力を修

得することを教育の柱とし、芸術表現の能力、地域デザインの能力を身に付け地域創生のために活躍できる人材を育成します。

(2) 学科・コースの概要

芸術で地域をデザインすることを学部共通の理念として、各種科目を開講するとともに、コース横断的・融合的なカリキュラムを実現するために1学部1学科体制としています。「芸術表現」と「地域デザイン」という異なる2つの手法により「芸術で地域を拓き、芸術で世界を拓く」という共通の目的を果たすとともに、学問研究としての専門性を明確にするために2コース制とし、異なるアドミッション・ポリシーのもと、入学者選抜をコース別に行います。

芸術を自ら創造・表現し、地域創生に貢献する人材を養成する「芸術表現コース」には、美術・工芸及び有田セラミックの2分野を配置します。また、文化芸術を支え、新たな付加価値を生み出し、地域創生に貢献する人材を養成する「地域デザインコース」には、地域コンテンツデザイン、キュレーション及びフィールドデザインの3分野を配置します。

1) 芸術表現コース

①美術・工芸分野

日本画、西洋画、彫刻、漆・木工芸、染色工芸、ミクストメディアなどからひとつを選んで専門を深めていきます。さらに、材料・技法、経営、歴史などを幅広く学ぶことによって、社会に柔軟に対応できる能力を育成します。

専門分野を究めながらも、マルチな感性と技術をもあわせ持っている人材の育成は、本学の美術・工芸教育の大きな特色です。加えて、佐賀大学美術館を活用した展覧会や実習、学生と市民の協働によるアート活動のカリキュラムなども組まれています。

②有田セラミック分野

カリキュラムや、育成する人材のレベルにおいて、他に類を見ない「やきもの」の専門課程です。佐賀大学が磨いてきた美術・工芸分野の表現・造形技術、工学系分野の科学技術、経済学分野の教育・研究——これに、本学に移行する有田窯業大学校が築いてきた伝統工芸教育の伝統が融合して、国内最高峰の環境が実現しました。ここで、陶磁器・ファインセラミックスの研究を進め、高度な専門性を持つ人材を育成します。さらに、各種地場産業や佐賀県窯業技術センター、九州陶磁文化館、海外の様々な研究機関とのネットワークによって、「やきもの教育研究の国際拠点」を目指します。

2) 地域デザインコース

①地域コンテンツデザイン分野

豊かな発想力と確かな表現力を身に付け、デザインという観点から社会やメディアに対応できる人材を育てます。

視覚情報媒体を主体とした社会のニーズを読み取り、「着想」から「実現」までのプロセス、メディアの使い分け、チームワークの大切さなども学びます。さらにデジタルメディアや先端のテクノロジーを駆使して、さまざまな情報やコンテンツを発信します。

そして人々に知的満足感をとどけ、豊かなコミュニケーションを生み出すデザインを創造します。そのために、発想力や企画力、行動力などを磨き、ローカル・グローバルを問わず社会に貢献できる力を身に付けます。

②キュレーション分野

キュレーター養成の専門コースです。キュレーターとは、博物館・美術館の専門職(学芸員)、自治体の教育委員会の文化財担当者、国際的な展覧会・イベントや芸術を生かした地域でのまちづくりなどを担う人材のことを指します。学芸員となるために必要な博物館学、芸術の理論と歴史などの知識を基礎に、芸術・文化を人々につなげ、地域に拓いていくために必要なプロデュース力や文化産業を担うために必要な経営学など幅広い応用力を身に付け、芸術や文化歴史資源をマネジメントする人材を育成します。佐賀大学美術館で行われる実習、吉野ヶ里遺跡などの地域の考古学調査、国内外の芸術の現場の視察や調査など、幅広い体験学習を通し、実践的な力が身に付きます。

③フィールドデザイン分野

地域の魅力を発掘し、新たな息吹をもたらすために、何が必要か。フィールドデザインでは、地域の課題を見つけ、その歴史資源、文化遺産や景観を評価し、新しい企画や提案ができる力を養います。地理、歴史、流通マーケティング、都市デザインといった幅広い学際的な学び、国内にとどまらない国際的な視野からの文化理解と異文化コミュニケーション力の養成、そして、様々なフィールドでの学習を通して、地域を創造的な視点からデザインする力を養います。まちづくりの現場や吉野ヶ里遺跡などの発掘調査、海外で調査を行う研修などの実習を通し、国内外のフィールドで活躍する人材を育てます。

3 文化教育学部や教育学部への改組計画について

(1) 改組の目的

文化教育学部では、国際文化課程、人間環境課程、美術・工芸課程の3つの課程を廃止するとともに、学校教育課程の理念である「社会的、国際的に広い視野と教養を持ち、教科内容、教育方法等について幅広く学び、教育実習の充実・高度化を通して、学校教育現場の諸問題に的確に対応できる教員を育成する」機能を強化することを目的に、学部の名称を「教育学部」に改め、次のような改組を計画しています。

(2) 改組の概要

- 教員養成機能を強化するため、学校教育課程に特化し、入学定員を現在の学校教育課程の90人から120人に増やします。
- 複雑で多様な地域の数多くの教育課題に対応できる高度な指導力を持った教員を養成するため、現在の学校教育課程を、異なる校種間の教育の連携・接続という観点から、「幼小連携教育コース」と「小中連携教育コース」の2つのコースからなる課程に編成し直します。
- 「幼小連携教育コース」には、幼児期から児童期への子どもの心身の発達や学びを支援する教育を扱う「幼小発達教育専攻」、特別な支援が必要な子どもの発達段階・特徴に応

じた教育支援を扱う「特別支援教育専攻」の2専攻を設置します。

- 「小中連携教育コース」には、中学校の学びへの接続を意識しながら小学校の教科等の授業を考える「初等教育主免専攻」、小学校での学びとの関係を考慮しながら中学校における教材や指導法の研究を行う「中等教育主免専攻」の2専攻を設置します。

(3) コース・専攻の概要

1) 幼小連携教育コース

本コースでは、子どもの生活・発達・学習について、心理、教育・保育、特別支援教育の視点から専門的知識や技能を学ぶことにより、子どものニーズや課題を把握できる教員を養成することを目的としています。そのため、幼小発達教育専攻と特別支援教育専攻という2つの専攻を設け、幼稚園・小学校の教育の接続に関する基礎知識と特別支援教育の基本的理念を習得した上で、それぞれの専攻における専門分野の学習を行います。

①幼小発達教育専攻

小学校教諭1種免許を取得するための各教科等の学習を行うとともに、幼児期から児童期への心身の発達に関する基礎知識を身につけ、幼児教育（保育所・認定こども園・幼稚園等）についての専門的な知識と技能を習得します。幼児教育と小学校教育の接続を中心的な課題としてとらえ、子どもたちの発達や学びの連続性を保証し、その後の児童から生徒への連続的な発達についても理解ができる教員を養成します。

②特別支援教育専攻

小学校教諭1種免許を取得するための各教科等の基礎知識、幼児期から児童期への心身の発達に関する基礎知識を身につけた上で、それをベースにして、特別な教育ニーズをもつ子どもの教育的支援についてのより専門的な知識を習得します。幼児期・児童期の定型発達のプロセスやその特徴を踏まえ、障害特性に応じた教育支援だけでなく、発達段階・特徴に応じた教育支援を展開できる教員を養成します。

2) 小中連携教育コース

本コースではまず、小学校（全教科）と中学校（いずれか1教科）の教員に必要な教科内容、教科教育の基礎的な学習を行います。その上で、1つの教科については、小学校と中学校の教育の接続の観点からその教科の特性を深く理解し、児童生徒の学習意欲を高め、学力を向上させるための教材開発、指導法、ICTの利活用、児童生徒に対する支援のあり方について学修します。そのため、本コースには、初等教育主免専攻と中等教育主免専攻という2つの専攻を設置します。

①初等教育主免専攻

小学校教諭1種免許を取得するための各教科等の基礎知識を身につけ、児童の発達段階を理解し、発達段階に応じた授業作りをどの教科等についても行います。更に、1教科については、中学校教育の基礎的事項を習得した上で、中学校での学習との接続を踏まえて小学校の教材や指導法を開発することができる教員を養成します。

②中等教育主免専攻

児童・生徒の青年期にかかる発達段階を理解し、小学校での学びを受けてその成長を

進められる教科等の授業作りを行い、高校への学習につなぐことができる教員を養成します。小学校教育について理解した上で、中学校の1つの教科について十分な知識と技能を身につけ、その教科の内容や指導法について深く探究することを目標としています。

(4) 教育課程の特色

- 幼小連携教育コースでは「幼小連携教育論」「幼児・児童発達論」の授業科目、小中連携教育コースでは、「小中連携教育内容研究」「小中連携教育論」（教科ごとに開設）の授業科目を中心に、異校種間の教育の連携・接続の問題を扱う機会を増やします。
- 高度な指導力・授業力を身につけた教員を養成するために、実践的な授業科目をさらに増やすとともに、各学年において充実した教育実習を実施します。
- 課程共通の必修科目として、「小学校英語活動」「小学校英語内容論」を開設し、小学校教員免許を取得するすべての学生に、小学校での英語教育を担える素地を養成します。
- どの専攻においても小学校教諭免許取得が求められますが、さらに所定の科目を履修することにより、幼稚園教諭、特別支援学校教諭、中学校教諭（国語、社会、数学、理科、音楽、保健体育、技術、家庭、英語）、高等学校教諭（国語、書道、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、保健体育、家庭、英語）の免許を取得することが可能です。

Ⅱ 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

佐賀大学の求める入学者

佐賀大学は、学生と緊密にコミュニケーションできる総合大学として、人格形成、専門知識・技術の修得、そして基礎から実用開発にいたるまで、能力を最大限に伸ばすことを目標に人材育成と研究活動を展開します。

佐賀大学の教育目標は、高度情報化社会で活躍できる情報基礎と専門知識を修得させること、地域文化を理解し地域に根ざした活動を行うための素養を持たせること、国際化時代にふさわしい異文化理解とコミュニケーション能力を修得させることです。

佐賀大学は、チャレンジ精神を持ち、問題を自発的に探求・解明し、社会に貢献できることを人生目標とする学生を求めています。

経 済 学 部

【1】求める学生像

経済学部は、経済学・経営学・法律学を柱として社会科学上の知識と教養を授け、経済や社会における課題を分析し、解決できる人材を育成することを教育の目的とします。各学科の目的と求める学生像は以下の通りです。

■経済学科

経済学科は、経済の理論と政策を学び、現代の経済と社会の仕組みについて総合的に考え、幅広い視野と専門知識をもつ人材を育てることを教育の目的にしています。そのために、以下に示すような学生像を求めています。

- ① 現代に生起している問題に関心をもち、経済と社会の仕組みを理解しようとする意欲を持つ人
- ② 様々な社会現象を理解するために必要な幅広い基礎学力を有している人
- ③ 社会の変化に対応するために、生涯に亘って学習を続けることの必要性を認識し、その基盤となる幅広い知識と学修能力を大学で得たいと考えている人

[経済学科で学ぶために必要な能力や適性及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み]

社会で生起している問題を理解するためには幅広い基礎知識が必要です。様々な知識や情報をもとに自分なりの考えをまとめるためには、文章の読解力だけでなく、論理的に記述する国語力が求められます。また、経済学には、数学的な思考が必要な分野も含まれます。したがって、高等学校の教科書レベルの知識を習得していることが重要です。専門高等学校から進学する場合には、普通科の科目だけでなく、商業科目の基本的な知識と技能を習得しておくことが求められます。社会問題への関心と情報収集能力が必要です。

国際性が求められる時代においては、英語を中心とした外国語だけでなく、歴史や地理などの幅広い知識が国際経済や国際政治などの理解を深めるために必要です。また、経済や経営、法律に関連する社会現象に関心を向け、関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことは、入学後の学修にとって有益です。

■経営学科

経営学科は、企業の経営・会計を学び、企業経営について幅広い視野と専門知識をもつ人材を育てることを教育の目的にしています。そのために、以下に示すような学生像を求めています。

- ① 企業の経営や会計を学びたいという強い意欲を持つ人
- ② 様々な社会現象を理解するために必要な幅広い基礎学力を有している人
- ③ 社会の変化に対応するために、生涯に亘って学習を続けることの必要性を認識し、その基盤となる幅広い知識と学修能力を大学で得たいと考えている人

[経営学科で学ぶために必要な能力や適性及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み]

企業の経営や会計を理解するためには幅広い基礎知識が必要です。様々な知識や情報に基づいて、自分なりの考えをまとめるためには、文章の読解力だけでなく、論理的に記述する国語力が求められます。また、経営学や会計学には、高等学校の教科書レベルの数学の知識や考え方を応用する分野も含まれます。専門高等学校から進学する場合には、普通科の科目だけでなく、商業科目の基本的な知識と技能を習得しておくことが望まれます。

国際性が求められる時代においては、英語を中心とする外国語だけでなく、歴史や地理などの幅広い知識が国際経済や国際ビジネスに対する理解を深めます。一方、社会問題への関心と情報収集能力が必要です。また、経済や経営、法律に関連する社会現象に関心を向け、関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことは、入学後の学修にとって有益です。

■経済法学科

経済法学科は、経済と社会の規範である法律を学び、法政策について幅広い視野と専門知識をもつ人材を育てることを教育の目的としています。そのために、以下に示すような学生像を求めています。

- ① 現代の経済と社会の仕組みや規範について考えることに関心のある人
- ② 様々な社会現象を理解するために必要な幅広い基礎学力を有している人
- ③ 社会の変化に対応するために、生涯に亘って学習を続けることの必要性を認識し、その基盤となる幅広い知識と学修能力を大学で得たいと考えている人

[経済法学科で学ぶために必要な能力や適性及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み]

経済と社会の規範である法律について理解するためには幅広い基礎知識が必要です。法律の用語や内容を理解するためには国語力が不可欠です。法律を学ぶには社会と政治についての知識が必要で、そのためには、歴史や地理などの幅広い知識は重要なものとなります。国際性が求められる現代において、英語を中心とする外国語が重要であることは言うまでもありません。

そして、経済学や経営学も含めた幅広い学修が求められるため、高等学校の教科書レベルの数学の知識が必要となります。また、社会問題への関心と情報収集能力も必要です。経済や経営、法律に関連する社会現象に関心を向け、関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことは、入学後の学修にとって有益です。

【2】入学者選抜の基本方針

経済学部の教育理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての人を対象とした一般入試を行います。一般入試では、「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により、異なる観点から入学希望者を選考します。

【前期日程】

大学で学修するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を理解するために必要な基礎学力として、国際的な視野で情報を収集し理解するための英語力を有しているかを判断するために、個別試験によって英語の基礎学力を評価します。

【後期日程】

大学で学修するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、社会科学の専門知識を得るために必要な基礎学力として、文献や資料の読解力と論理的思考能力および表現力を有しているかを判断するために、個別試験の小論文によって評価します。

特別入試

一般入試とは異なる観点により、多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では、「推薦入試Ⅰ」（「普通科又はこれに準ずると本学部が認める科推薦」と「商業系の科、情報系の科、総合学科推薦」の2区分）により、入学希望者を選考します。

【推薦入試Ⅰ】

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。本学部の選考では、大学で学修するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、調査書によって高等学校での学習達成度を評価するとともに、専門科目を学ぶために必要な基礎学力および適性を有しているかを判断するために小論文を課し、書類審査と口頭試問によって本学部に対する明確な志望動機や入学後の学修意欲を評価します。なお、商業系の科・情報系の科・総合学科の生徒を対象にした区分では、簿記検定などの資格取得といった経済学部の勉学に関連した学習実績も評価します。

私費外国人留学生入試

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生入試を行います。本入試では、大学で学修するために必要な基礎学力として、日本語試験と日本語による口頭試問を行い、日本留学試験の結果と合わせて、入学後の学修に必要な語学力を持っているかを判断します。それと同時に、日本留学試験、書類審査、口頭試問によって、汎用的な学力および専門科目を学ぶために必要な基礎学力を評価します。さらに、本学部に対する明確な志望動機や入学後の学修意欲を有しているかを評価するために、書類審査と口頭試問を行います。

経済学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

観点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法
知識・理解・思考・判断	大学で学ぶために必要な汎用的な学力	大学入試センター試験において、4教科5科目の主要教科についての基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）
		調査書において、高校時代における学業成績、学習態度を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ）
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ）
		日本留学試験において、文系科目の成績を用いて評価します。	私費外国人留学生入試
		日本留学試験において、日本語科目を用いて基本的な語学力を評価します。	私費外国人留学生入試
		面接試験において、基礎的な日本語能力を評価します。	私費外国人留学生入試
	専門科目を学ぶために必要な基礎学力および適性	大学入試センター試験において、4教科5科目の主要教科についての基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）
		個別試験で、高校で履修する「英語」における、基礎的な英文の読解力および英語作文力を記述式によって評価します。	一般入試（前期日程）
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ）
		推薦書によって、高校時代に取得した資格を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） ※商業系の科、情報系の科、総合学科推薦のみ
		口頭試問によって、本学部で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 私費外国人留学生入試
		日本留学試験において、文系科目の成績を用いて評価します。	私費外国人留学生入試
		書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	私費外国人留学生入試
		興味・関心・態度・意欲	志望学科で学ぶための明確な志望動機や入学後の学習意欲
推薦書において、推薦の理由を参考にします。	特別入試（推薦入試Ⅰ）		
志願者本人の自筆の作文によって、志望理由、入学後の意欲等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ）		
面接試験において、本学部で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 私費外国人留学生入試		

医 学 部

【1】求める学生像

医学部は、教育・研究・診療の三つの使命を一体として推進することによって、社会の要請に応えうる良い医療人を育成し、もって医学・看護学の発展並びに地域包括医療の向上に寄与することを基本理念とします。各学科の目的と求める学生像は以下の通りです。

■医学科

医の実践において、強い生命倫理観に基づくとともに広い社会的視野の下に包括的に問題をとらえ、その解決を科学的・創造的に行うような医師を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 医学への志を持ち、医学・医療により社会に貢献したいと考える人
- ② 他者への思いやりを持ち、コミュニケーションを取ることができる人
- ③ 学習と医療の研鑽を努力・持続するための忍耐強さを持つ人
- ④ 医学を学ぶために必要な基礎的学力・能力を備えている人
- ⑤ 生涯を通して、医学・医療について勉学する意欲のある人

〔医学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

医学は、生命科学を中心に自然科学のあらゆる分野が密接に関連しているとともに、人間を対象とする人文・社会科学の要素が深く関わっています。そのため、高等学校で履修すべき科目を偏ることなく、幅広く習得しておくことが必要です。特に、生物・化学・物理・数学の基本的事項を充分理解し、それに基づく論理的な思考ができるようにしておく必要があります。さらに、大学の学習で用いる参考書等の理解、レポートの作成、グループ討論や発表に必要な国語力、英語力およびコミュニケーション能力を獲得していることも重要です。また、医学への志を確かなものにするために、医学・医療をとりまく社会に目を向け、読書やボランティア活動、医療関連先輩との交流などの取組みを通じて、自らキャリアデザインを考える積極的な姿勢が望まれます。

■看護学科

高い倫理観に基づき健康についての問題を包括的にとらえ、柔軟に解決する実践能力を持った看護職者を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 人間に関心を持ち、人々の健康と福祉に貢献したいと願う人
- ② 豊かな感性と表現力を身につけている人
- ③ 相手の立場に立って、柔軟に物事を考えられる人
- ④ 看護職に夢を持ち、理想とする看護職者を目指そうとする人
- ⑤ 幅広い基礎学力と論理的な思考力を備えている人
- ⑥ 生涯を通して、看護学や医療について勉学する意欲のある人

〔看護学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

看護学は、健康な人から病をもつ人まで様々な健康レベルの人々を対象とした実践科学です。人間は身体的・精神的・社会的存在で、環境と相互作用しながら健康を維持しています。これらの健康のしくみには、自然・人文・社会科学的要素が深く関わっているため、看護学の学習のためには、高等学校で履修すべき科目を偏ることなく、幅広く習得しておくことが必要です。看護実践の基礎となる、看護の知識と専門的技術の修得には、特に、生物・化学・物理・数学の基本的事項を理解し、論理的な思考ができるようにしておく必要があります。また、看護は人間関係を通して実施されるため、文章による意思の疎通に必要な国語力や自己・他者間の理解を共有するためのコミュニケーション能力を獲得していることも重要です。大学での学習は、看護の生涯学習の基盤となるため、国内外の社会に目を向け、読書やボランティア活動などの自己啓発の取り組みを通じて、自ら考える積極的な姿勢が望まれます。

【2】 入学者選抜の基本方針

医学部の教育理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とした一般入試を行います。一般入試では、「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により、異なる観点から入学希望者を選考します。

【前期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験と調査書によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力、科学的あるいは論理的思考力および問題解決能力、明確な志望動機や入学後の意欲等、医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、個別試験において、学力検査(医学科)、小論文(看護学科)、面接試験および調査書によって評価します。

【後期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験と調査書によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、個別試験において、調査書、自己推薦書および面接試験によって評価します。

特別入試

一般入試とは異なる観点により、多様な能力や資質および経験を有し、そして本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では、「推薦入試Ⅰ」（看護学科）、「推薦入試Ⅱ」（医学科）、「佐賀県推薦入学」（医学科）、「帰国子女」（医学科）、「社会人」（看護学科）の5つの入試区分により、入学希望者を選考します。なお、「推薦入試Ⅱ（佐賀県枠）」と「佐賀県推薦入学」については、将来、佐賀県内の医療活動に、また「推薦入試Ⅱ（長崎県枠）」については、将来、長崎県内の医療活動に貢献したいという強い意志を持つ者を対象とします。

【推薦入試Ⅰ】（看護学科）

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、調査書と小論文によって評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【推薦入試Ⅱ】（医学科）

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験と調査書によって高等学校までの学習到達度を評価すると同時に、小論文によって、科学的あるいは論理的思考力および問題解決能力について評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【佐賀県推薦入学】（医学科）

出願要件を満たし、佐賀県から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって高等学校までの学習到達度を評価すると同時に、小論文によって、科学的あるいは論理的思考力および問題解決能力について評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【帰国子女】（医学科）

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、学力検査と書類審査によって評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【社会人】（看護学科）

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学

力を有しているかを判断するために、書類審査と小論文によって評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

編入学試験（看護学科）

短期大学及び専修学校の卒業生で、さらに高度な専門教育・研究を希望する入学希望者を対象に3年次編入学試験を行います。本入試では、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、小論文と書類審査によって評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、面接試験によって評価します。

私費外国人留学生入試（医学科）

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生入試を行います。本入試では、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、学力検査、日本留学試験、TOEFLの成績および書類審査によって評価します。さらに、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、面接試験によって評価します。

医学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

観点	評価方法	入試方法	対象学科
知識・理解・思考・判断	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学）	医学科
	大学入試センター試験において、5教科6科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）	看護学科
	個別試験において、高校で履修する数学、英語、物理、化学について、標準的な知識と理解、それに基づく論理的な思考力について記述式によって評価します。	一般入試（前期日程） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試	医学科
	調査書において、高校時代における学業成績、学習態度を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学）	医学科
		一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ）	看護学科
	小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学）	医学科
		一般入試（前期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（社会人） 3年次編入学試験	看護学科
	書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試	医学科
	日本留学試験において、理系科目の成績を用いて評価します。	私費外国人留学生入試	医学科
	日本留学試験と面接試験において、基本的な日本語力を評価します。	私費外国人留学生入試	医学科
TOEFLの得点を用いて、基礎的な英語力を評価します。	私費外国人留学生入試	医学科	
興味・関心・態度・意欲	調査書において、高校時代における課外活動や志望学科での学習と関連する実績等を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学）	医学科
		一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ）	看護学科
	自己推薦書の内容について評価します。	一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ）	医学科
		一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ）	看護学科
	推薦書において、推薦の理由を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学）	医学科
		特別入試（推薦入試Ⅰ）	看護学科
	面接試験において、志望学科で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試	医学科
		一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（社会人） 3年次編入学試験	看護学科

理 工 学 部

【1】求める学生像

理工学部は、幅広い教養と科学・技術の専門的な素養を持ち、社会の広い分野で活躍できる人材を育成することを目的とします。各学科の目的と求める学生像は以下の通りです。

■数理科学科

数理科学科では、数学及び数理科学の領域において、広く社会で活躍できる高度な専門的知識・能力を持つ教育者、技術者、研究者となる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 数学および数理科学の分野の専門知識を修得し、論理的思考力、問題解決能力を身につけることを目指す人
- ② 数学および数理科学の分野で、専門的知識を社会に活用できる教育者、技術者を目指す人

[数理科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み]

数学の概念や論理的厳密性を修得するためには、微分積分、線形代数、集合・位相といった数学の基本的な考え方や手法を身につけることが必要です。そのためには、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。さらに、自然科学の基本的な概念や原理・法則を理解して科学的な自然観を養っておくことは、学びの視野を広げることに繋がります。そのため、高等学校で学ぶ理科についても教科書レベルの知識を有していることが望まれます。一方、専門科目に限らず、大学では多くのレポートを書くことが一般的です。レポート作成には、文章の読解力と記述力さらには社会的な常識が必要となります。したがって、高等学校で学ぶ国語や社会の基礎的な学力は必要です。さらに、日本語文献だけでなく英語文献などもセミナー形式で学習しますので、英文の基礎的な読解力だけでなく、自分で辞書等を調べて英文を読みこなす習慣をつけておくことが必要です。

■物理科学科

物理科学科では、広範な自然現象を理解する試みを通して、現代の科学技術を支える学力と、柔軟性に富んだ豊かな発想力を培い、広い分野で活躍できる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 理数系科目の学力に優れ、自然科学に対して強い興味を持つ人

[物理科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み]

物理学における基本的な概念や法則を理解するためには、高等学校で履修する物理と数学の基本的事項の理解および計算能力だけでなく、それらの知識に基づく論理的な思考力が求められま

す。また、実験や観測を通して法則を見出すための洞察力も必要です。さらに、専門的な知識や考え方を修得するためには、海外の文献にも目を通すことが必要であり、高等学校の教科書レベルの英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解およびレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

■知能情報システム学科

知能情報システム学科では、情報科学及び情報工学の学問領域における専門知識・能力及び広い視野を持ち、知識基盤社会を担う人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 全般的な基礎学力を備え、特に数学、理科の学力を備えた人
- ② IT に対する興味と基礎知識がある人
- ③ ソフトウェア開発や情報システムの構築に取り組む意欲のある人

[知能情報システム学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み]

知能情報システム学科では、IT の理論の専門基礎を重点的に教育します。そのため、高等学校で数学及び理科の基礎事項を理解し、教科書レベルの問題を解く能力を求めます。文書作成、口頭発表の能力を育成しますので、国語の学力が重要です。専門文献を読むため及び国際社会で活躍するための語学教育に必要な英語の学力も要求します。また、幅広い文化、自然、社会の素養を修得するために広範な基礎学力も必要です。本学科では、実験科目や卒業研究を通してグループの中での協調性、自主的学習能力、情報収集能力などを育成します。したがって、良識的に行動し、高い学習意欲を持ち、知識の獲得に積極的な学生の入学を望みます。

■機能物質化学科

機能物質化学科では、化学を通して継続的に社会に貢献することのできる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 日頃から身の回りにある物質・材料がどのような化合物からできていて、その機能はどのような原理に基づいているのかを興味を持って調べ、自らの手で新しい機能物質を創り出すことに意欲を持つ人
- ② 化学はもちろん生物・物理・数学など理数系科目が得意で、国語・社会・英語などの基礎学力を身に付けた人

[機能物質化学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み]

化学は、物質の構造や機能の関係性を明らかにするために、様々な物質を詳細に調べ、新しい物質の合成や分解を行います。そのため、既存物質の特性を正確に把握し、必要な仮説と検証実験、そして得られた結果の論理的説明が求められます。このように化学を専門的に学ぶためには、

高等学校で学習する化学の基本事項を十分に理解していることが必要です。また、実験等で取得したデータ解析には、計算能力や数学的思考力が求められ、物質の物理的性質や生物的性質を理解するためには物理学や生物学の知識が必要となります。したがって、高等学校で学習する数学、物理および生物の基礎学力は、化学を専門的に理解するためには欠かせないものです。さらに、新しい知識や技術を身につけるためには、外国の文献等にも目を通す必要があり、基礎的な英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解およびレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

■機械システム工学科

機械システム工学科では、機械工学及びその関連の領域において、専門的な基礎知識及びその応用力並びにもものづくりの素養を身に付けた技術者となる人材を育成します。

- ① 理数系の基礎学力とともに倫理観を持ち、「ものづくり」に興味のある人

〔機械システム工学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み〕

機械工学は、すべてのものづくりに欠かせない技術であり、それを修得するためには、高等学校で学ぶ数学と物理および化学の基本的事項を理解し、教科書レベルの基本問題を解く能力を十分身につけておく必要があります。また、講義を理解して、レポートを作成したり、自分が調べたものを発表するためには、読解力や記述力を中心とする国語能力だけでなく、現代社会の仕組みや歴史、文化など高等学校の社会科で学ぶ一般的な知識も求められます。さらに、英文の読解や作成、外国人とのコミュニケーションなど様々な分野で将来的に活躍するためには、高等学校で学ぶ基礎的な英語力は欠かせないものです。そして、ものづくりを通じた社会への貢献に興味と熱意を持つことを期待します。

■電気電子工学科

電気電子工学科では、電気工学及び電子工学の領域における専門的知識・能力を持ち、社会で活躍できる人材を育成します。

- ① エレクトロニクスや情報通信関連のハードウェアやソフトウェアなどの「もの創り」への関心を持ち、あるいは世界的視野に立ったエネルギーや環境問題などにも興味を持った意欲ある人
- ② 高校時代においては数学、物理、化学などの理数系科目の基礎学力をしっかりと身につけた人

〔電気電子工学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み〕

電気電子工学科に入学した学生は、日本の誇る大企業や九州の有力企業をはじめとする社会の第一線で活躍できるよう、電気電子工学に関連した様々な理数系専門科目を学びます。技術文書を正確に書く練習や、技術英語の修得も行います。そして、それらを駆使して社会に役立つもの

を創り出す研究活動も行います。そのため、入学時点で、数学、物理、化学などの理数系科目の基礎学力をしっかり身につけていることが必要です。国語、英語、社会の基本的な知識を学んでいることも必要です。高校等での学習においては、教科書の範囲で解ける標準的な問題を、確実に解けるようにすることを望みます。社会で活躍できることを目指して育成しますので、もの創りへの関心や、エネルギーや環境問題等への興味が必要であり、男女を問わず意欲ある人の入学を望みます。

■都市工学科

都市工学科では、都市工学の領域における専門的知識・能力を持ち、社会で活躍できる人材を育成します。

- ① 私たちの暮らしを支える社会基盤や自然環境、建築デザインなどに興味のある人
- ② 専門教育に必要な基礎学力と勉学意欲を有している人
- ③ 自律的な学習を支える責任感、チャレンジ精神とやり遂げる強い意志を持つ人

[都市工学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み]

都市における交通体系や水・エネルギー供給のライフライン、建築物等のさまざまな社会基盤・施設の整備と安全・安心の確保は非常に重要ですが、同時に自然環境や歴史、風土等との調和も必要です。都市工学科では、都市や地域に関する理解、形態や空間を扱うデザインも学問対象としていますので、様々な社会的事象および文化や歴史についても関心を持つことが求められます。したがって、都市工学科の志願者には、高校で学ぶ数学・物理など自然科学の基礎力、論理的思考を支える国語力、英語で書かれた文献の理解のための英語力、さらに地域の文化や歴史に目を向け得るための社会的な基礎知識などが求められます。

【2】入学者選抜の基本方針

理工学部教育理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とした一般入試を行います。一般入試では、「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により、異なる観点から入学希望者を選考します。

【前期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、個別試験によって数学と理科、英語の基礎学力を評価します。

【後期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、各学科の専門科目と特に関係の深い教科および科目について高い学力を有しているかを判断するために、個別試験によって各学科が指定する科目の学力を評価します。

特別入試

一般入試とは異なる観点により、多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では、「推薦入試Ⅰ」、「推薦入試Ⅱ」及び「帰国子女」の3つの入試区分により、入学希望者を選考します。

【推薦入試Ⅰ】

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、調査書、小論文および口頭試問によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【推薦入試Ⅱ】

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力、適性および明確な入学の意思を有しているかを判断するために、調査書と推薦書によって評価します。

【帰国子女】

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、書類審査、小論文および口頭試問によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

編入学試験

各学科の専門分野において、さらに高度な専門教育・研究を希望する他教育機関からの学生を対象に3年次編入学試験を行います。編入学試験では、「一般入試」、「推薦入試」および「外国人留学生特別入試」の3つの区分により、入学希望者を選考します。

【一般入試】

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、学力検査、口頭試問および成績証明書等によって評価します。また、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、面接試験によって評価します。

【推薦入試】

出願要件を満たし、各所属長から推薦されることを前提とします。その上で、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、推薦書、小論文および口頭試問によって評価します。また、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【外国人留学生特別入試】

出願要件を満たし、各所属長から推薦されることを前提とします。その上で、入学後の学習に必要な日本語の習得について判断するために、日本留学試験の成績を用いて評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、学力検査、口頭試問および成績証明書等によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、面接試験によって評価します。

私費外国人留学生入試

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生入試を行います。本入試では、大学で学習するために必要な基礎学力として、日本留学試験、TOEFLの成績および面接試験によって入学後の学習に必要な語学力について評価すると同時に、日本留学試験、書類審査および口頭試問によって汎用的な学力を有しているかを評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

理工学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

観点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法
知識・理解・思考・判断	大学で学ぶために必要な汎用的な学力	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ）
		調査書において、高校時代における学業成績、学習態度を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（推薦入試Ⅱ）
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女）
		書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	特別入試（帰国子女）
		日本留学試験において、理系科目の成績を用いて評価する。	私費外国人留学生入試
		口頭試問によって、志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	私費外国人留学生入試
		日本留学試験において、日本語科目を用いて基本的な語学力を評価します。	私費外国人留学生入試
		TOEFLの得点を用いて、基礎的な英語力を評価します。	私費外国人留学生入試
	専門科目を学ぶために必要な基礎学力	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ）
		個別試験において、高校で履修する数学、物理、化学および英語に関する標準的な知識と理解、数理的な解析力、それに基づく論理的思考と表現力について記述式によって評価します。	一般入試（前期日程）
		個別試験において、高校で履修する数学、物理および化学の中から1つの科目について、深い知識と理解および応用力、数理的な解析力、それに基づく論理的思考と表現力について記述式によって評価します。	一般入試（後期日程）
		口頭試問によって、志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試 3年次編入学試験（一般入試）
		調査書において、専門科目を理解できる基礎学力及び適性を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅱ）
		学力検査において、数学、英語、専門科目に関する標準的な知識と理解、それに基づく論理的な思考力について記述式によって評価します。	3年次編入学試験（一般入試）
興味・関心・態度・意欲	志望学科で学ぶための明確な志望動機や入学後の学習意欲	調査書において、高校時代における課外活動や志望学科での学習と関連する実績等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ）
		推薦書において、推薦の理由を参考にします。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（推薦入試Ⅱ）
		面接試験において、志望学科で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試

農 学 部

【1】求める学生像

農学部は、農学及び関連する学問領域において、多様な社会的要請にこたえうる幅広い素養と実行力を身に付けた人材を育成することを目的とします。各学科の目的と求める学生像は以下の通りです。

■応用生物科学科

応用生物科学科では、生物の特性を理解し、生物の改良や活用を通して、社会に貢献できる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 多様な動植物の生理生態的特性の解明、バイオテクノロジーを用いた有用生物資源の開発・利用、有用動植物を加害する病害虫の制御等についての理解と関心がある人
- ② 問題解決に向けて、粘り強く自己研鑽に努める熱意と実行力がある人
- ③ 本学科で学んだことを活かして社会で活躍したいという目的意識と向上心がある人

〔応用生物科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

生物に対する興味があり、生物の機能また生物が生育する環境について学習するための基礎学力として、高等学校で履修する理科や数学の基本事項を理解していることが必要です。また、講義を理解し、レポート等を作成・発表するためには、様々な文献を読み、文書を作成するという国語力が必要になるだけでなく、社会の仕組みや地理・歴史といった高等学校の教科書レベルの一般常識も求められます。さらに、専門的な知識や技術を得るためには、海外の文献にも目を通す必要があるため、高等学校の教科書レベルの英語の読解力が不可欠です。農学は、実験や調査活動を自主的にかつ継続的に行なうことが重要です。また、その課題はグローバルな問題が多くあります。従って、自然科学全般に対する知識欲と、勉強を続けるための目的意識を持つこと、さらに、教員、先輩、友人、留学生等とコミュニケーションがとれる積極性が必要です。

■生物環境科学科

生物環境科学科では、3つのコースにおいて次のような人材を育成します。生物環境保全学コースでは、地球上の環境や生態系を深く理解し、これらの保全、再生及び活用を通して、社会に貢献できる人材を育成します。資源循環生産学コースでは、生物科学及び生産情報科学の理論と技術を学び、環境に配慮した食糧生産と環境問題の解決に貢献できる人材を育成します。地域社会開発学コースでは、フィールドワークに基づく教育研究を通して、日本を含むアジア・太平洋諸地域における、持続可能な循環型地域社会の構築に貢献できる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 自然環境、社会環境及び生物生産環境の保全と修復に興味を持つ人
- ② 永続的な農業を可能にする新たな生物生産システム及び経済社会システムの創造に意欲があ

る人

- ③ 本学科で学んだことを活かして社会で活躍したいという目的意識と向上心がある人

〔生物環境科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

人間を含む生物やそれを取り巻く環境及び人間社会に対する興味があり、これらを総合的に学習するための基礎学力として、高等学校で履修する理科や数学の基本事項を理解していることが必要です。また、講義を理解し、レポート等を作成・発表するためには、様々な文献を読み、文書を作成するという国語力が必要になるだけでなく、社会の仕組みや地理・歴史、文化といった高等学校の教科書レベルの一般常識も求められます。さらに、専門的な知識や技術を得るためには、海外の文献にも目を通す必要があるため、高等学校の教科書レベルの英語の読解力が不可欠です。農学の課題にはグローバルな問題が多くあり、それを解決する糸口を得るため、実験や調査活動を自主的にかつ継続的に行なうことが重要です。従って、自然科学全般に対する知識欲と、勉強を続けるための目的意識を持つこと、さらに、教員、先輩、友人また留学生等とコミュニケーションがとれる積極性が望まれます。

■生命機能科学科

生命機能科学科では、科学的思考力を備え、生命科学技術の応用を通して、食と健康の分野において社会に貢献できる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 生体における遺伝子の発現や物質代謝とそれらの調節機構を分子レベルで理解するライフサイエンス、食品の生体調節機能、栄養機能や安全性等に興味を持っている人
- ② 将来、本学科で学んだ知識や技術を社会で活かそうと考えている人

〔生命機能科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

生命現象に対する科学的興味があり、微生物から高等生物までの生命体が持つ機能について学習するための基礎学力として、高等学校で履修する理科や数学の基本事項を理解していることが必要です。また、講義を理解し、レポート等を作成・発表するためには、様々な文献を読み、文書を作成するという国語力が必要になるだけでなく、社会の仕組みや地理・歴史、文化といった高等学校の教科書レベルの一般常識も求められます。さらに、専門的な知識や技術を得るためには、海外の文献にも目を通す必要があるため、高等学校の教科書レベルの英語の読解力が不可欠です。農学は、実験や調査活動を自主的にかつ継続的に行なうことが重要です。また、その課題はグローバルな問題が多くあります。従って、自然科学全般に対する知識欲と、勉強を続けるための目的意識を持つこと、さらに、教員、先輩、友人また留学生等とコミュニケーションがとれる積極性が必要です。

【2】入学者選抜の基本方針

農学部教育理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とした一般入試を行います。一般入試では、「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により、異なる観点から入学希望者を選考します。

【前期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として、汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を学ぶために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、個別試験によって、「数学」と「英語」の基礎学力を評価します。

【後期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として、汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を深く理解するために必要な数理的な思考力・表現力に関する高い能力を有しているかを判断するために、個別試験によって、「数学」の基礎学力を評価します。

特別入試

一般入試とは異なる観点により、多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では、「推薦入試Ⅰ」と「帰国子女」の2つの入試区分により、入学希望者を選考します。

【推薦入試Ⅰ】

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として、汎用的な学力を有しているかを判断するために、書類審査(調査書、推薦書、作文等)、小論文および口頭試問によって評価します。また、専門科目を学ぶために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問と小論文によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【帰国子女】

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として、汎用的な学力を有しているかを判断するために、書類審査(成績証明書等)、小論文

および口頭試問によって評価します。また、専門科目を学ぶために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問と小論文によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

編入学試験

短期大学及び専修学校の卒業者等で、さらに高度な専門教育・研究を希望する入学希望者学生を対象に3年次編入学試験を行います。

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、専門科目を学ぶために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、書類審査（成績証明書等）、学力検査（英語）、口頭試問および面接試験等によって評価します。また、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

私費外国人留学生入試

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生入試を行います。本入試では、大学で学習するために必要な基礎学力として、日本留学試験、TOEFLの成績および面接試験によって入学後の学習に必要な語学力について評価すると同時に、日本留学試験、書類審査（成績証明書等）および口頭試問によって汎用的な学力を有しているかを評価します。また、専門科目を学ぶために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

農学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

観点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法
知識・理解・思考・判断	大学で学ぶために必要な汎用的な学力	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）
		調査書において、高校時代における学業成績、学習態度を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ）
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女）
		書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	特別入試（帰国子女）
		日本留学試験において、理系科目の成績を用いて評価します。	私費外国人留学生入試
		口頭試問によって、志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	私費外国人留学生入試
		日本留学試験において、日本語科目を用いて基本的な語学力を評価します。	私費外国人留学生入試
		TOEFLの得点を用いて、基礎的な英語力を評価します。	私費外国人留学生入試
	専門科目を学ぶために必要な基礎学力	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）
		個別試験において、高校で履修する「数学」について、標準的な知識と理解、数理的な解析力、それに基づく論理的思考と表現力を記述式によって評価します。また、「英語」では、長文読解力、論理的思考力等を有しているかについて記述式によって評価します。	一般入試（前期日程）
		個別試験において、高校で履修する数学について、深い知識と理解および応用力、数理的な解析力、それに基づく論理的思考と表現力について記述式によって評価します。	一般入試（後期日程）
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女）
		口頭試問によって、志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試 3年次編入学試験（一般入試）
		学力検査において、英語文章の読解力について評価します。	3年次編入学試験（一般入試）
興味・関心・態度・意欲	志望学科で学ぶための明確な志望動機や入学後の学習意欲	調査書において、高校時代における課外活動や志望学科での学習と関連する実績等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ）
		推薦書において、推薦の理由を参考にします。	特別入試（推薦入試Ⅰ）
		面接試験において、志望学科で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試 3年次編入学試験（一般入試）

Ⅲ 推薦入試Ⅰ 〈大学入試センター試験を課さない〉

1 実施する学部、学科、募集人員及び対象となる高等学校の科

※ 「高等学校」とは、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設とします。

学 部	学 科	募集人員	対象となる高等学校の科
経済学部 (60人)	経 済 学 科	10	高等学校の商業系の科(商業高等学校の全科を含みます)・情報系の科及び総合学科(注1)
		10	高等学校の普通科又はこれに準ずると本学部が認める科
	経 営 学 科	20	高等学校の商業系の科(商業高等学校の全科を含みます)・情報系の科及び総合学科(注1)
		10	高等学校の普通科又はこれに準ずると本学部が認める科
経 済 法 学 科	10	高等学校の普通科又はこれに準ずると本学部が認める科	
医学部 (20人)	看 護 学 科	20	高等学校の全科(うち、2人以内を専門系の科及び総合学科から募集します。)(注2)
理工学部 (27人)	知能情報システム学科	2	高等学校の情報系の科及び総合学科(注3)
	機 能 物 質 化 学 科	2	高等学校の工業系の科及び総合学科(注3)(注4)
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科	5	高等学校の機械系の科及び総合学科(注3)
	電 気 電 子 工 学 科	4	高等学校の電気・電子・情報系の科及び総合学科(注3)
	都 市 工 学 科	4	高等学校の土木・建築系の科及び総合学科(注3)
10		高等学校の普通科・理数科及び総合学科(注5)	
農学部 (30人)	応 用 生 物 科 学 科	3	高等学校の専門系の科及び総合学科(注2)
		7	高等学校の全科(ただし、専門系の科を除きます。)(注5)
	生 物 環 境 科 学 科	3	高等学校の専門系の科及び総合学科(注2)
		12	高等学校の全科(ただし、専門系の科を除きます。)(注5)
	生 命 機 能 科 学 科	1	高等学校の専門系の科及び総合学科(注2)
4		高等学校の全科(ただし、専門系の科を除きます。)(注5)	
合 計		137	

(注1) 高等学校の商業系の科・情報系の科及び総合学科については、商業系の専門教育に関する科目(「産業社会と人間」及び情報処理に関する基礎科目を含みます。)を20単位以上修得(見込みを含みます。)していること。

(注2) 高等学校の総合学科については、専門教育に関する科目(「産業社会と人間」を含みます。)を20単位以上修得(見込みを含みます。)していること。

(注3) 高等学校の総合学科については、それぞれの学科に関係する専門教育に関する科目(「産業社会と人間」を含みます。)を20単位以上修得(見込みを含みます。)していること。

(注4) 工業系の科については全科を対象とします。

(注5) 高等学校の総合学科については、専門教育に関する科目(「産業社会と人間」を含みます。)の修得単位が20単位未満の者(見込みを含みます。)に限ります。

2 出 願 資 格

推薦入試Ⅰの出願資格は、下記(1)～(3)のすべての条件を満たす者としてします。

(1) 推 薦 要 件

学部, 学科		推 薦 要 件
経 済 学 部	商業系の科・情報系の科及び総合学科推薦	高等学校の成績が最終学年次（最終学年次において外国に留学した者については、その前学年次）に上位10%以内の者で、人物、学力について優れ、高等学校長が責任をもって推薦できる者 ただし、コース毎等のみの順位による推薦はできません。
	普通科又はこれに準ずると本学部が認める科推薦	社会科学にとりわけ関心があり、かつ、人物について優れ、全体の評定平均値が4.0以上の者で、高等学校長が責任をもって推薦できる者 ただし、次のうちいずれかの要件を満たす者に限ります。 ① 成績優秀な者（外国語については評定平均値4.3以上とします。） ② 社会事象についての分析や、社会的活動等において優れた実績があり、それを裏付ける資料のある者（ただし、この実績については証明する資料を添付してください。） ③ 個性的で積極性に富み、高等学校長が、大学生活においてその能力を十分に発揮できると評価し、推薦に値すると思われる者
医 学 部	看護学科	次の①、②のすべてに該当し、高等学校長が責任をもって推薦できる者 ① 学習成績が優秀で調査書の学習成績概評がA段階に属し、心身ともに健全である者（Aに該当する者については、調査書の「4. 学習成績概評」欄にAと標示し、「9. 備考」欄にその理由を明示してください。） ② 将来、病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持つ優れた看護職者あるいは看護学研究者として自主的な研究を積極的に進める才能を持つと期待できる者
理 工 学 部		学習成績、人物ともに優れ、科学技術に対する熱意と能力があると評価されて、高等学校長が責任をもって推薦できる者 （「V共通事項 7 理工学部への推薦に際しての留意点」（50ページ）を参照してください。）
農 学 部		学習成績、人物について優れ、自然科学に対する熱意と能力があると評価されて、高等学校長が責任をもって推薦できる者 ただし、高等学校の専門系の科及び総合学科の対象者は、学習成績概評が、Aとして推薦できる者に限ります。これに該当する者の調査書の「4. 学習成績概評」欄にAと標示し、「9. 備考」欄にその理由を明示してください。

※ 高等学校の専門系の科及び総合学科については、28ページの（注1）～（注5）により、修得単位数を確認ください。

(2) 高等学校を平成28年3月卒業見込みの者

ただし、経済学部及び医学部看護学科については、平成27年度中に高等学校の卒業(修了)を認められた者を含みます。

(3) 合格した場合は、**確実に入学**できる者

3 推薦人員

学 部	学 科	推 薦 人 員
経 済 学 部	経 済 学 科	前記「2 出願資格」の要件を満たす者であれば、推薦人員を限定しません。
	経 営 学 科	
	経 済 法 学 科	
医 学 部	看 護 学 科	各高等学校から推薦できる人員は、2人以内とします。
理 工 学 部	知能情報システム学科	前記「2 出願資格」の要件を満たす者であれば、推薦人員を限定しません。
	機能物質化学科	
	機械システム工学科	
	電気電子工学科	
	都 市 工 学 科	
農 学 部	応用生物科学科	対象となる各高等学校の全日制、定時制及び通信制の各課程から各学科に対して2人以内とします。
	生物環境科学科	
	生命機能科学科	専門系の科及び総合学科は、対象となる各高等学校の全日制、定時制及び通信制の各課程から1人とします。 専門系の科を除く全科は、対象となる各高等学校の全日制、定時制及び通信制の各課程から2人以内とします。

4 出願方法及び出願期間

- (1) 高等学校長は、提出書類を取りまとめ、次の提出先あて、平成27年11月2日(月)から11月9日(月)17時までに**必着**するように提出してください。

郵送の場合は、「速達書留」とし、本学所定の封筒を使用してください。

持参する場合は、次の提出先に提出してください。

[提出先]

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課

- (2) 国公立大学の推薦入試（大学入試センター試験を課す場合、課さない場合を含めて）へ出願することができるのは、**1つの大学・学部**であるので留意してください。

ただし、本学の理工学部の「大学入試センター試験を課さない推薦入試」で不合格となった場合には、「大学入試センター試験を課す推薦入試」において、同学部・同一学科への出願は可能です。

5 出願に必要な書類等

<p>(1)入学検定料 17,000円 (出願用書類在中封筒内に同封)</p>	<p>本要項に添付の検定料振込依頼書を使用し、銀行窓口において検定料を納入してください。(次頁注意事項参照)</p>
<p>(2)検定料振込証明台紙 (出願用書類在中封筒内に同封)</p>	<p>上記検定料を納入後、銀行窓口において受領する「C票 検定料振込証明書」を本要項添付の台紙に貼り付けてください。</p>
<p>(3)入 学 志 願 票 (様式推I) (出願用書類在中封筒内に同封)</p>	<p>本学所定の入学志願票に必要事項を自筆で記入してください。</p>
<p>(4)写真2枚(4cm×3cm) 写真票・受験票(様式推I) (出願用書類在中封筒内に同封)</p>	<p>上半身脱帽正面向きで3か月以内に撮影したものを写真票及び受験票の所定欄に貼り付けてください。</p>
<p>(5)調 査 書</p>	<p>所定の様式により出身高等学校長が作成し、厳封したもの (注:「学習成績概評」欄に㊸と標示した場合は、必ず「備考」欄にその理由を明示してください。 「中等教育学校並びに併設型中学校及び併設型高等学校の教育課程の基準の特例を定める件」により中学時に修得した科目がある場合は、単位数及び評定を備考欄に記入してください。)</p>
<p>(6)高等学校長の推薦書</p>	<p>各学部所定の推薦書用紙により、出身高等学校長が作成し、厳封したもの</p>
<p>(7)自 己 推 薦 書 (医学部看護学科志願者のみ) (出願用書類在中封筒内に同封)</p>	<p>本学所定の用紙により、志願者本人が作成したもの</p>
<p>(8)志 望 理 由 書 (経済学部及び農学部志願者のみ) (出願用書類在中封筒内に同封)</p>	<p>それぞれの学科を志願する理由、入学後特にしたいことなどについて、志願者本人が自筆で作成したもの 作文用紙は、本学所定の用紙を使用し、800字程度とします。</p>
<p>(9)住 所 届 (出願用書類在中封筒内に同封)</p>	<p>本学所定の住所届に必要事項を自筆で記入してください。</p>
<p>(10)受験票送付用封筒1枚</p>	<p>受験票を送付しますので、本学所定の封筒の表面に受取人の住所、氏名、郵便番号を明記の上、400円分の切手を貼り付けてください。</p>

注 意 事 項

下記の場合は出願を受理しません。

- ① 検定料が振り込まれていない場合（「C票 検定料振込証明書」に出納印がない場合）
- ② 振り込み済の「C票 検定料振込証明書」が、検定料振込証明台紙に貼り付けられていない場合
※出願書類を受理した後は、振り込み済の**検定料は返還いたしません。**

次の場合は、**検定料の返還請求ができます**ので、必ず手続きしてください。

- ① 検定料を振り込んだが、本学に出願書類を提出しなかった場合
- ② 検定料を振り込み、本学に出願書類を提出したが、受理されなかった場合
- ③ 検定料を誤って二重に振り込んだ場合

なお、返還請求の方法等については、学務部入試課（0952-28-8178）までお問い合わせください。

調査書の記入について

廃校・被災その他の事情により出身高等学校長の調査書が得られない場合は、卒業証明書、成績通信簿その他志願者が提出できる書類をもって代えることができます。また、出願者が被災等により上記書類も整えられない場合は、出身学校所管の教育委員会、知事又は出身学校長が作成したこれに関する証明書を提出してください。

東日本大震災で被災された佐賀大学志願者への入学検定料の免除について

1. 免除申請の要件

入学検定料の免除を申請できるのは、次に該当する者です。

（ア）東日本大震災における災害救助法が適用されている地域で被災した志願者で、次のいずれかに該当する者

- ① 主たる家計支持者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊、流失した場合
- ② 主たる家計支持者が死亡又は行方不明の場合

（イ）居住地が福島第一原子力発電所事故により、帰還困難区域、居住制限区域又は避難指示解除準備区域に指定された者

2. 申請方法

事前に学務部入試課（0952-28-8178）に連絡し、該当すると判断された者は、所定の申請書類を出願書類とともに提出してください。

3. 申請書類

（ア）「入学検定料免除申請」本学ホームページからダウンロードできます。

<http://www.sao.saga-u.ac.jp/PDF/menjo-appli.pdf>

なお、ご請求頂ければ、郵送により送付します。

（イ）「り災証明書」（上記1.（ア）の①に該当する者）

（ウ）「死亡又は行方不明を証明する書類」（上記1.（ア）の②に該当する者）

（エ）「被災証明書」（上記1.（イ）に該当する者）

6 入 試 方 法

(1) 入試方法

高等学校長からの推薦に基づき、提出された調査書及び小論文、面接等の結果を総合して決定します。

[試験内容]

学部, 学科		大学入試 センター試験	小論文	面接	備 考
経 済 学 部		×	○	○	面接は口頭試問を含みます。
医 学 部	看 護 学 科	×	○	○	
理 工 学 部		×	○	○	面接は口頭試問を含みます。
農 学 部		×	○	○	面接は口頭試問を含みます。

[配点]

学部・学科等		区分	書類審査 (調査書, 推薦書等)	小論文	面接	総合得点 (総合評価)
経 済 学 部	経 済 学 科	商業系の科・ 情報系の科・ 総合学科推薦	40	100	2段階 評 価 (合, 否) (注)	2段階 評 価 (合, 否)
	経 営 学 科					
	経 済 学 科	普通科又はこ れに準ずると 本学部が認め る科推薦	2段階 評 価			
	経 営 学 科					
経 済 法 学 科						
医 学 部	看 護 学 科		150	200	150	500
理 工 学 部	知能情報システム学科		2段階 評 価	3段階 評 価 (A, B, C)	3段階 評 価 (A, B, C) (注)	総合評価 (良, 可, 不可)
	機 能 物 質 化 学 科					
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科					
	電 気 電 子 工 学 科					
	都 市 工 学 科					
農 学 部	応 用 生 物 科 学 科		100	200	200 (注)	500
	生 物 環 境 科 学 科					
	生 命 機 能 科 学 科					

(注) 面接は、口頭試問を含みます。

(2) 採点・評価基準

学部、学科		対象となる科	実技検査等	内 容
経 済 学 部		商業系の科・情報系の科及び総合学科	小論文	資料を提示のうえ、それについての読解力、着眼力、思考力、文章表現力等を基準として評価します。
			面接	高校生活の活動状況及び将来の学修意欲等について口頭試問します。
			調査書等	学習状況、資格取得状況、クラブ活動等をみます。
		普通科又はこれに準ずると本学部が認める科	小論文	資料を提示のうえ、それについての読解力、着眼力、思考力、文章表現力等を基準として評価します。
			面接	高校生活の活動状況及び将来の学修意欲等について口頭試問します。
			調査書等	学習状況、クラブ活動等をみます。
医 学 部	看護学科	全科	小論文	資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性、及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる能力を評価します。
			面接	医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について対話・口述を通して評価し、将来優れた看護職者になるために十分な適性を備えているかどうか総合的に判断します。
			調査書等	単に学業成績優秀というのみでなく、心身ともに健全で規則的な生活習慣を保ち、学習意欲・積極性や協調性に富んでいるかを高等学校3年間の行動記録である調査書及び高等学校長の推薦書によって評価します。志願者本人による自己推薦書も同様に取り扱います。 なお、調査書等については面接にあたっても参考にします。
理 工 学 部	知能情報システム学科	情報系の科及び総合学科	小論文	出題されたテーマに対し、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力をみます。
			面接	志望学科に必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲等について口頭試問します。
			調査書	学業成績、クラブ活動や、情報及び理数関連の実績等学業以外の活動が志望動機となっている場合も評価します。
	機能物質化学科 機械システム工学科 電気電子工学科 都市工学科	工業系・総合学科・機械系・電気・電子・情報系・土木・建築系の科	小論文	出題されたテーマに対し、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力をみます。
			面接	志望学科に必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲等について口頭試問します。
			調査書	学業成績、クラブ活動や理数関連の実績等学業以外の活動が志望動機となっている場合も評価します。
	都市工学科	普通科・理数科及び総合学科	小論文	出題されたテーマに対し、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力をみます。
			面接	志望学科に必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲等について口頭試問します。
			調査書	学業成績、クラブ活動や理数関連の実績等学業以外の活動が志望動機となっている場合も評価します。
農 学 部		専門系の科及び総合学科	小論文	出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力をみます。
			面接	必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲等について、口頭試問します。
			調査書	学業成績、修学状況、部活動及び社会活動をみます。
		専門系の科を除く全科	小論文	出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力をみます。
			面接	必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲等について、口頭試問します。
			調査書	学業成績、修学状況、部活動及び社会活動をみます。

(3) 合否判定基準

学部, 学科		対象となる科	内 容
経 済 学 部		商業系の科・情報系の科及び総合学科	書類（調査書，推薦書等），小論文及び面接の成績を総合して判定します。
		普通科又はこれに準ずると本学部が認める科	書類（調査書，推薦書等），小論文及び面接の成績を総合して判定します。
医学部	看護学科	全科	小論文，面接，高等学校長の推薦書，調査書等を総合して合格者を決定します。なお，面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。
理 工 学 部	知能情報システム学科	情報系の科及び総合学科	書類（調査書，推薦書等），小論文及び面接の成績を総合して判定します。
	機能物質化学科 機械システム工学科 電気電子工学科 都市工学科	工業系・総合学科・機械系・電気・電子・情報系・土木・建築系の科	書類（調査書，推薦書等），小論文及び面接の成績を総合して判定します。
	都市工学科	普通科・理数科及び総合学科	書類（調査書，推薦書等），小論文及び面接の成績を総合して判定します。
農 学 部		専門系の科及び総合学科	書類選考（調査書，作文等），小論文及び面接等の結果を資料として判定の上，合格者を決定します。
		専門系の科を除く全科	書類選考（調査書，作文等），小論文及び面接等の結果を資料として判定の上，合格者を決定します。

IV 推薦入試Ⅱ 〈大学入試センター試験を課す〉

1 実施する学部、学科、募集人員及び対象となる高等学校の科

※「高等学校」とは、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設とします。

学 部	学 科	区 分	募集人員	対象となる高等学校の科
医学部 (44人)	医 学 科	一 般 枠	20	高等学校の全科
		佐賀県枠	23	
		長崎県枠	1	
理工学部 (27人)	知能情報システム学科	—	3	
	機 能 物 質 化 学 科		10	
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科		10	
	電 気 電 子 工 学 科		4	
合 計			71	

2 出 願 資 格

推薦入試Ⅱの出願資格は、下記の(1)、(2)のすべての条件を満たす者とします。

(1) 推 薦 要 件

学部, 学科	区分	推 薦 要 件
医学部 医学科	一般枠	<p>次の各号のすべてに該当する者で、高等学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属し、心身ともに健全である者（Aに該当する者については、調査書の「4. 学習成績概評」欄にAと標示し、「9. 備考」欄にその理由を必ず明示してください。）</p> <p>② 将来、病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持つ優れた医師あるいは医学研究者として自主的な研究を積極的に進める才能を持つと期待できる者</p> <p>③ 高等学校を平成27年度中に卒業を認められた者又は平成28年3月卒業見込みの者</p>
	佐賀県枠	<p>次の各号のすべてに該当する者で、高等学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属し、心身ともに健全である者（Aに該当する者については、調査書の「4. 学習成績概評」欄にAと標示し、「9. 備考」欄にその理由を必ず明示してください。）</p> <p>② 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち、将来、佐賀県内の医療活動に貢献したいという強い意思を有する者</p> <p>③ 高等学校を平成26年4月以降に卒業を認められた者又は平成28年3月卒業見込みの者で、次のいずれかに該当する者</p> <p>1) 佐賀県内の高等学校を卒業又は卒業見込みの者</p> <p>2) 佐賀県外の高等学校を卒業又は卒業見込みの者のうち、佐賀県内の小学校、中学校のいずれかを卒業し、保護者※が佐賀県内に平成27年10月1日現在で3年以上在住している者（出願手続時に住民票あるいは戸籍の附票で確認します。）</p> <p>※保護者とは、子女に対して親権を行う者、親権を行う者のないときは、未成年後見人をいう。（本学部における保護者の定義（学校教育法から引用））</p> <p>④ 卒業後は、佐賀県内の基幹型臨床研修病院において、初期臨床研修（2年）を受けることを確約できる者</p>
	長崎県枠	<p>次の各号のすべてに該当する者で、高等学校長が責任を持って推薦できる者</p> <p>① 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属し、心身ともに健全である者（Aに該当する者については、調査書の「4. 学習成績概評」欄にAと標示し、「9. 備考」欄にその理由を必ず明示してください。）</p> <p>② 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち、将来、長崎県内の地域医療に貢献したいという強い意思を有する者</p> <p>③ 高等学校を平成26年4月以降に卒業を認められた者又は平成28年3月卒業見込みの者で、次のいずれかに該当する者</p> <p>1) 長崎県内の小学校又は中学校を卒業した者</p> <p>2) 長崎県内の高等学校を卒業又は卒業見込みの者</p> <p>④ 入学後は「長崎県医学修学資金」の貸与を受け、大学卒業後は長崎県が指定する長崎県内の医療機関等で診療に従事することを確約できる者</p>

学部, 学科		区分	推 薦 要 件												
理工学部	知能情報システム学科	—	<p>次の①, ②のすべてに該当し, 学習成績, 人物ともに優れ, 科学技術に対する熱意と能力があると評価されて, 高等学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 高等学校を平成28年3月卒業見込みの者及び平成27年3月に卒業した者</p> <p>② 以下に指定している科目を履修している者</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>学 科</th> <th>教科</th> <th>科目名等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知能情報システム学科</td> <td>数 理</td> <td>数Ⅲ 物理</td> </tr> <tr> <td>機 能 物 質 化 学 科</td> <td>数 理</td> <td>数Ⅲ 化学</td> </tr> <tr> <td>機 械 シ ス テ ム 工 学 科 電 気 電 子 工 学 科</td> <td>数</td> <td>数Ⅲ</td> </tr> </tbody> </table>	学 科	教科	科目名等	知能情報システム学科	数 理	数Ⅲ 物理	機 能 物 質 化 学 科	数 理	数Ⅲ 化学	機 械 シ ス テ ム 工 学 科 電 気 電 子 工 学 科	数	数Ⅲ
	学 科			教科	科目名等										
	知能情報システム学科			数 理	数Ⅲ 物理										
	機 能 物 質 化 学 科			数 理	数Ⅲ 化学										
機 械 シ ス テ ム 工 学 科 電 気 電 子 工 学 科	数	数Ⅲ													
機能物質化学科															
機械システム工学科															
電気電子工学科															

(2) 合格した場合は, **確実に入学**できる者

医学部医学科の佐賀県枠及び長崎県枠について

「佐賀県枠」について

「佐賀県枠」の募集人員には, 佐賀県内で医療活動に従事し地域医療を担う人材を育成するための「佐賀県医師修学資金」が貸与される5人が含まれています。

「佐賀県枠」の志願者に, 奨学金貸与希望の確認を行います, 詳細は, 受験票送付時に文書にて連絡します。

1. 「佐賀県医師修学資金」貸与を希望した入学者は, 佐賀県に貸与申請を行うことを原則とします。
2. 上記修学資金の貸与は, 卒業後, 佐賀県が指定する基幹型臨床研修病院において2年間の初期臨床研修を行い, その後一定期間, 県が指定する県内の医療機関において医療活動に従事することを返還免除の条件としているものです。

「佐賀県医師修学資金」については, 佐賀県のホームページをご確認ください。

佐賀県ホームページ http://www.pref.saga.lg.jp/web/kurashi/_1019/tiiki/shuugakushikin-chiikiishi.html

「長崎県枠」について

「長崎県枠」を志願した入学者には、長崎県内で医療活動に従事し地域医療を担う人材を育成するための「長崎県医学修学資金」が貸与されます。

1. 「長崎県枠」を志願した入学者は、長崎県に貸与申請を行ってください。
2. 上記修学資金の貸与は、卒業後、長崎県が指定する基幹型臨床研修病院において2年間の初期臨床研修を行い、その後一定期間、県が指定する県内の医療機関において医療活動に従事することを返還免除の条件としているものです。

「長崎県医学修学資金」については、長崎県のホームページをご確認ください。

長崎県ホームページ <http://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/iryo/isinoyousei/>

3 推 薦 人 員

学部	学 科	区分	推 薦 人 員
医学部	医 学 科	一般枠	各高等学校から推薦できる人員は2人以内とします。
		佐賀県枠	前記「2 出願資格」の要件を満たす者であれば、推薦人員を限定しません。
		長崎県枠	
理工学部	知能情報システム学科	—	前記「2 出願資格」の要件を満たす者であれば、推薦人員を限定しません。
	機 能 物 質 化 学 科		
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科		
	電 気 電 子 工 学 科		

4 出願方法及び出願期間

- (1) 高等学校長は、提出書類を取りまとめ、次の提出先あて、以下の各学部の出願期間に必着するように提出してください。

郵送の場合は、「速達書留」とし、本学所定の封筒を使用してください。

持参する場合は、次の提出先に提出してください。

学部, 学科	出 願 期 間	
医学部医学科	平成27年11月2日(月)～11月9日(月)	17時必着
理 工 学 部	平成28年1月18日(月)～1月25日(月)	

[提出先]

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課

- (2) 国公立大学の推薦入試（大学入試センター試験を課す場合、課さない場合を含めて）へ出願することができるのは、**1つの大学・学部**であるので留意してください。

ただし、本学の理工学部の「大学入試センター試験を課さない推薦入試」で不合格となった場合には、「大学入試センター試験を課す推薦入試」において、同学部・同一学科への出願は可能です。

5 出願に必要な書類等

		医学部	理工学部	
(1)入学検定料 17,000円 (出願用書類在中封筒内に同封)	○本要項に添付の検定料振込依頼書を使用し、銀行窓口において検定料を納入してください。(次頁注意事項参照) ○第1次選考(「6 入試方法」参照)の不合格者に対しては、13,000円を返還します。 第1次選考結果を通知する際に「返還請求書」等を送付しますので、必要事項を記入の上、指定する期日までに手続を行ってください。 なお、第1次選考不合格者及び次頁注意事項の場合以外は、いかなる理由があっても既納の検定料は一切返還しません。	○	○	
(2)検定料振込証明台紙 (出願用書類在中封筒内に同封)	上記検定料を納入後、銀行窓口において受領する「C票 検定料振込証明書」を本要項添付の台紙に貼り付けてください。	○	○	
(3)入学志願票 (様式推Ⅱ) (出願用書類在中封筒内に同封)	本学所定の入学志願票に必要事項を自筆で記入してください。	○	○	
(4)写真2枚(4cm×3cm) 写真票・受験票(様式推Ⅱ) (出願用書類在中封筒内に同封)	上半身脱帽正面向きで3か月以内に撮影したものを写真票及び受験票の所定欄に貼り付けてください。	○	○	
(5)大学入試センター試験成績請求票	医学部 医学科志願者は、「平成28センター試験成績請求票 国公立推薦入試用」を大学側で貼付しますので、平成27年12月18日(金)までに学務部入試課宛て速達書留で送付してください。なお、「平成28センター試験成績請求票」の余白に本学の受験番号を記入してください。 理工学部 志願者は入学志願票に貼り付けて出願してください。	○	○	
(6)調 査 書	所定の様式により出身高等学校長が作成し、厳封したもの (注:「学習成績概評」欄に㊸と標示した場合は、必ず「備考」欄にその理由を明示してください。 「中等教育学校並びに併設型中学校及び併設型高等学校の教育課程の基準の特例を定める件」により中学時に修得した科目がある場合は、単位数及び評定を備考欄に記入してください。)	○	○	
(7)高等学校長の推薦書	志望学部所定の推薦書用紙により、出身高等学校長が作成し、厳封したもの	○	○	
(8)自己推薦書 (出願用書類在中封筒内に同封)	本学所定の用紙により、志願者本人が作成したもの	○	×	
(9)佐賀県枠・長崎県枠 志願理由書・確約書	本学所定の用紙により、志願者本人が作成したもの	○	×	
(10)卒業証明書等	佐賀県枠	佐賀県において、佐賀県外の高等学校を卒業した者及び卒業見込みの場合は、小学校、中学校いずれかの卒業証明書などを提出してください。(推薦要件に指定されている県内の学校を卒業している証明となるもの:卒業証書の写しなど)	対象者	×
	長崎県枠	長崎県において、長崎県外の高等学校を卒業した者及び卒業見込みの場合は、小学校、中学校いずれかの卒業証明書などを提出してください。(推薦要件に指定されている県内の学校を卒業している証明となるもの:卒業証書の写しなど)	対象者	×
(11)住民票あるいは戸籍の 附票の写し	佐賀県において、佐賀県外の高等学校を卒業した者及び卒業見込みの場合は、保護者の住民票あるいは戸籍の附票の写しを提出してください。(平成27年10月1日以降に発行されたものに限ります。)	対象者	×	
(12)住 所 届 (出願用書類在中封筒内に同封)	本学所定の住所届に必要事項を自筆で記入してください。	○	○	
(13)受験票送付用封筒1枚	受験票を送付しますので、本学所定の封筒の表面に受取人の住所、氏名、郵便番号を明記の上、400円分の切手を貼り付けてください。	○	○	

注 意 事 項

下記の場合は出願を受理しません。

- ① 検定料が振り込まれていない場合（「C票 検定料振込証明書」に出納印がない場合）
 - ② 振り込み済の「C票 検定料振込証明書」が、検定料振込証明台紙に貼り付けられていない場合
- ※出願書類を受理した後は、振り込み済の**検定料は返還いたしません。**

次の場合は、**検定料の返還請求ができます**ので、必ず手続きしてください。

- ① 検定料を振り込んだが、本学に出願書類を提出しなかった場合
- ② 検定料を振り込み、本学に出願書類を提出したが、受理されなかった場合
- ③ 検定料を誤って二重に振り込んだ場合

なお、返還請求の方法等については、学務部入試課（0952-28-8178）までお問い合わせください。

調査書の記入について

廃校・被災その他の事情により出身高等学校長の調査書が得られない場合は、卒業証明書、成績通信簿その他志願者が提出できる書類をもって代えることができます。また、出願者が被災等により上記書類も整えられない場合は、出身学校所管の教育委員会、知事又は出身学校長が作成したこれに関する証明書を提出してください。

東日本大震災で被災された佐賀大学志願者への入学検定料の免除について

1. 免除申請の要件

入学検定料の免除を申請できるのは、次に該当する者です。

(ア) 東日本大震災における災害救助法が適用されている地域で被災した志願者で、次のいずれかに該当する者

- ① 主たる家計支持者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊、流失した場合
- ② 主たる家計支持者が死亡又は行方不明の場合

(イ) 居住地が福島第一原子力発電所事故により、帰還困難区域、居住制限区域又は避難指示解除準備区域に指定された者

2. 申請方法

事前に学務部入試課（0952-28-8178）に連絡し、該当すると判断された者は、所定の申請書類を出願書類とともに提出してください。

3. 申請書類

(ア) 「入学検定料免除申請」本学ホームページからダウンロードできます。

<http://www.sao.saga-u.ac.jp/PDF/menjo-appli.pdf>

なお、ご請求いただければ、郵送により送付します。

(イ) 「り災証明書」(上記1.(ア)の①に該当する者)

(ウ) 「死亡又は行方不明を証明する書類」(上記1.(ア)の②に該当する者)

(エ) 「被災証明書」(上記1.(イ)に該当する者)

6 入 試 方 法

(1) 入試方法

医学部

高等学校長からの推薦に基づき、提出された調査書等及び小論文、面接、大学入試センター試験成績等を総合して決定します。

なお、入学志願者が、一般枠及び佐賀県枠は募集人員の約5倍、長崎県枠は約10倍を上回り、試験を適切に行うことが困難であると予想される場合には、書類(調査書、推薦書等(学校長推薦書))による第1次選考を実施することがあります。

第1次選考の実施の有無については、本学ホームページでお知らせします。

第1次選考を実施した場合は、合格者には「受験票」及び「受験者注意事項」等を、不合格者には「不合格通知」及び「検定料返還請求書」等を速達郵便で送付します。

理工学部

高等学校長からの推薦に基づき、提出された調査書、推薦書及び大学入試センター試験成績を総合して決定します。

[試験内容]

学部, 学科	大 学 入 試 センター試験	小論文	面 接	実技検査
医学部医学科	○	○	○	×
理 工 学 部	○	×	×	×

大学入試センター試験の成績は、平成28年度大学入試センター試験の成績を用いることとし、受験を要する教科・科目(次ページ参照)のうち1つでも受験しなかった者は、失格となりますので注意してください。

[科目・配点等]

学部	学 科	利用教科	科 目 名 等	配 点	配点合計	
医 学 部	医学科	大学入試センター試験	国	国【必須】	140	1250
			地歴・公民	世B, 日B, 地理B, 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から1 (注1)	70	
			数	数I・数A【必須】 数II・数B, 簿・会, 情から1 (注2)	140	
			理	物【必須】 化【必須】	140	
			外	英【必須】(注3)	140	
		その他	書類審査(調査書, 推薦書等)	380		
			小論文	120		
面接	120					
理 工 学 部	知能情報システム学科 機能物質化学科 電気電子工学科	大学入試センター試験	国	国【必須】	100	1000
			地歴・公民	世B, 日B, 地理B, 倫・政経 } から1 (注1)	100	
			数	数I・数A【必須】 数II・数B, 簿・会, 情から1 (注2)	300	
	理		物, 化, 生, 地学から2	250		
	外		英, 独, 仏, 中, 韓から1 (注3)	250		
	その他	書類審査(調査書, 推薦書)	2段階評価(合・否)			
	学 部	機械システム工学科	大学入試センター試験	国	国【必須】	
地歴・公民				世B, 日B, 地理B, 倫・政経 } から1 (注1)	100	
数				数I・数A【必須】 数II・数B, 簿・会, 情から1 (注2)	300	
理				物【必須】 化, 生, 地学から1	250	
外				英, 独, 仏, 中, 韓から1 (注3)	250	
その他			書類審査(調査書, 推薦書)	2段階評価(合・否)		

【利用教科・科目名等】欄

(注1) 地理歴史及び公民において、2科目受験した場合は、受験した科目のうち「第1解答科目」の得点を採用します。

(注2) 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校においてこれらの科目を履修した者に限ります。

(注3) 外国語において英語を受験した者については、リスニングを受験してください。リスニング未受験の者については、失格とします。(大学入試センターにおいて審査の上、リスニングの免除を許可された者を除きます。)

【配点】欄

(医学部医学科)

英語は筆記試験(200点満点)を112点に、リスニング(50点満点)を28点に圧縮し、合計140点とします。リスニングを免除された者については、筆記試験(200点満点)を140点に換算します。

(理工学部)

英語は筆記試験200点、リスニング50点とします。なお、リスニングを免除された者については、筆記試験(200点満点)を250点に換算します。

(2) 大学入試センター試験における旧教育課程履修者に対する経過措置について

平成28年度佐賀大学入学選抜における旧教育課程履修者（「2. 新・旧教育課程履修者について」参照）に対する経過措置については、以下のとおり取り扱います。

1) 大学入試センター試験〔数学〕における旧教育課程履修者に対する経過措置

旧教育課程履修者は、新教育課程による出題科目・科目選択の方法に加え、「工業数理基礎」を選択解答することができます。ただし、「工業数理基礎」を選択解答することができる者は、高等学校又は中等教育学校において「工業数理基礎」を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の修了（見込）者に限ります。

2) 新・旧教育課程履修者について

新教育課程履修者	① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。以下同じ。）に平成25年4月に入学し、平成28年3月卒業見込みの者 ② 中等教育学校の後期課程に平成25年4月に進級し、平成28年3月卒業見込みの者
旧教育課程履修者	上記以外の者 * 高等学校等卒業生、高等学校卒業程度認定試験合格者又は合格見込者、大学入学資格検定合格者、高等専門学校第3学年修了者又は修了見込者、外国の学校等修了者又は修了見込者、在外教育施設修了者又は修了見込者、及び高等学校等を平成28年3月卒業見込みであるが、入学は平成25年3月以前の者など、上記に該当しない者

※「新教育課程」とは、平成25年4月1日から適用された高等学校学習指導要領（平成21年文部科学省告示第34号）に基づく教育課程及び平成21年3月9日文部科学省告示第38号の特例により定められた教育課程をいい、「旧教育課程」とは、従前の高等学校学習指導要領に基づく教育課程をいう。

(3) 採点・評価基準

学部, 学科		対象となる科	実技検査等	内 容
医学部	医 学 科	全科	小論文	資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決する能力を評価します。
			面接	医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について対話・口述を通して評価し、将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうか総合的に判断します。
			調査書等	単に学業成績優秀というのみでなく、心身ともに健全で規則的な生活習慣を保ち、学習意欲、積極性や協調性に富んでいるかを高等学校3年間の行動記録である調査書及び高等学校長の推薦書により評価します。志願者本人による自己推薦書も同様に扱います。 なお、調査書等については面接にあたっても参考にします。
理工学部	知能情報システム学科 機能物質化学科 機械システム工学科 電気電子工学科	全科	調査書	高校での履修状況、修学状況（出席等）、生活態度等について総合的に評価します。
			推薦書	「推薦の理由」が理工学部の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）における「求める学生像」を踏まえた内容になっているかを確認します。

(4) 合否判定基準

学部, 学科		対象となる科	内 容
医学部	医 学 科	全科	大学入試センター試験の成績、小論文、面接、高等学校長の推薦書、調査書等を総合して合格者を決定します。なお、面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。また、大学入試センター試験の成績が本学の基準を満たしていない場合は、不合格とすることがあります。
理工学部	知能情報システム学科 機能物質化学科 機械システム工学科 電気電子工学科	全科	大学入試センター試験の成績、調査書及び推薦書を総合して合格者を決定します。 なお、大学入試センター試験の成績が本学の定める基準を満たしていない場合は、不合格とすることがあります。

V 共通事項

1 試験日時，試験実施内容及び試験場

試験日時 経済学部，理工学部（推薦入試Ⅰ）及び農学部

平成27年11月27日(金)

医学部

平成27年11月28日(土)

学 部	実 施 内 容		試 験 場
経 済 学 部	10：00～11：30	小 論 文	経 済 学 部 (本庄キャンパス)
	12：30～	面 接 (口頭試問を含みます。)	
医 学 部	9：30～11：00	小 論 文	医 学 部 (鍋島キャンパス)
	12：30～	面 接	
理 工 学 部 (推 薦 入 試 Ⅰ)	10：00～11：30	小 論 文	理 工 学 部 (本庄キャンパス)
	12：30～	面 接 (口頭試問を含みます。)	
農 学 部	10：00～11：30	小 論 文	農 学 部 (本庄キャンパス)
	12：30～	面 接 (口頭試問を含みます。)	

2 事前相談を要するみなさんへ

本学において，受験上及び修学上の配慮を必要とされる志願者（障がいの有するなど）は，出願にあたって，次により相談してください。

(1) 相談の時期

平成27年10月2日(金)まで

なお，相談の内容によっては，本学の試験までに対応できず，配慮を希望される措置が講じられない場合がありますので，可能な限り早めに相談してください。

また，期限後に本学を志望することとなった場合及び不慮の事故等により障がい有することとなった場合は，その時点で速やかに相談してください。

(2) 相談の方法

電話，郵便等にて，下記まで連絡してください。詳細については，その際に説明いたします。

[相談及び連絡先]

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課

(電話) 0952-28-8178

3 合格者の発表

(1) 合格者の発表は、本学「学務部入試課（佐賀市本庄町1番地）」前に合格者の受験番号を掲示するほか、本学所定の合格通知書をもって通知します。

なお、推薦した高等学校長に対しては合否を通知します。

また、合格者発表日の10時30分頃からホームページ（<http://www.sao.saga-u.ac.jp/>）でも確認できます。

(2) 日時等

経済学部、医学部（看護学科）、理工学部（推薦入試Ⅰ）及び農学部

平成27年12月7日(月) 10時

医学部（医学科）及び理工学部（推薦入試Ⅱ）

平成28年2月10日(水) 10時

(3) 電話による合否に関する問い合わせには一切応じません。

4 入学手続

(1) 入学手続期間

入学手続書類は、以下の期間に必着するように発送してください。なお、特別な事情により入学を辞退する場合は、入学手続期間の最終日までに入学辞退の手続を行う必要があります。

推薦入試Ⅰ	平成28年1月18日(月)～1月21日(木) 17時
推薦入試Ⅱ	平成28年2月15日(月)～2月17日(水) 17時

(2) 入学手続の内容

前記(1)の入学手続期間内において、次に掲げる関係書類の提出及び入学料の納入を完了してください。

① 入学手続関係書類

本学所定の誓約書及び学生カード（合格者に対し、合格通知書と同時に郵送します。）、写真（2枚）

② 納入金

入学料：282,000円（入学手続時に納入してください。）

授業料：267,900円（前期・後期）[年額535,800円]

※この金額は、平成27年4月現在のものです。

（留意事項）

① 入学時又は在学中に納入金の改定が行われた場合には、改定後の入学料及び授業料を納入していただくことになります。

なお、合格通知書送付の際、納入方法を含め、改めてお知らせします。

② 授業料（前期分）は入学手続時に納入する必要はありません。納入期間は、平成28年4月5日(火)から5月31日(火)です。（入学後に付与される学籍番号が必要です。）

- ③ 納入した入学料は、いかなる理由があっても返還しません。
- ④ 入学手続完了者で、特別な事情により平成28年3月31日(木)までに授業料を納入し、なおかつ平成28年3月31日(木)までに入学を辞退し、受理された場合には、納入した者の申し出により、納入済の授業料相当額を返還します。
- ⑤ 入学料の免除及び徴収猶予ならびに授業料の免除については、合格者に送付する関係書類を熟読の上、学生生活課に申し出てください。

(3) 入学辞退について

- ① 推薦入試の合格者は、次の②により許可された者を除くほか、国公立大学の個別学力検査等を受験しても入学許可は得られません。
- ② 推薦入試の合格者は、本学へ入学しなければなりません。ただし、特別な事情により入学辞退の必要が生じた場合には、合格者を推薦した高等学校長から、**推薦入試Ⅰについては平成28年1月21日(木)までに辞退の理由を付した「推薦入試辞退理由書」(様式任意)を学務部入試課に提出し、本学の許可を受けなければなりません。なお、推薦入試Ⅱについては平成28年2月17日(木)までに辞退の理由を付した「推薦入試辞退理由書」(様式任意)を学務部入試課に提出し、本学の許可を受けなければなりません。(合格者に送付する入学手続等のご案内も併せて参照してください。)**
- ③ 上記②により、本学から入学辞退を許可された者は、個別学力検査等を受験することができますが、本学の許可を得ることがないまま、国公立大学の個別学力検査等を受験しても合格者とはなりません。

また、入学手続をしなかった者も、国公立大学の個別学力検査等を受験しても合格者とはなりません。

(4) 入学準備学習について

理工学部合格者には、合格発表後から入学するまでの間に、次の入学準備学習をしていただきます。

- 数学(数Ⅰ, 数Ⅱ, 数Ⅲ, 数A, 数B)のeラーニング

※eラーニングとはインターネットなどのコンピューターネットワークを通じて学習する方式です。

受講方法などは合格通知に同封の書類をご参照ください。

5 佐賀大学の一般入試を志願する場合

推薦入試の不合格者で、本学の一般入試(前期日程 平成28年2月25日・26日, 後期日程 平成28年3月12日・13日)に出願する場合は、「佐賀大学学生募集要項(一般入試)」に従って、改めて入学検定料を添え、出願してください。なお、医学部医学科及び理工学部(推薦入試Ⅱ)については、合格者発表前に出願することになりますので、注意してください。

この場合は、**大学入試センター試験の受験者に限りますので、注意してください。**

6 受験にあたっての主な注意事項

- (1) 受験者は、次により集合してください。なお、集合場所は受験票送付の際に併せて通知します。
 - 経済学部，理工学部（推薦入試Ⅰ）及び農学部
平成27年11月27日(金) 9時30分までに志願学部の指定した場所
 - 医学部
平成27年11月28日(土) 9時までに医学部の指定した場所
- (2) 試験室では受験番号と机上の番号が一致するように着席し，受験票を机上の右上に置いてください。机には，受験票，筆記用具，眼鏡及び時計（計時機能だけのもの。）以外のものは置かないでください。その他の荷物は監督者の指示に従い，机の下又は横に置いてください。
- (3) 携帯電話等の電子機器類を持参した場合は，試験室に入る前に必ずアラームの設定を解除し電源を切っただけかばん等に入れておいてください。
- (4) 試験時間中，トイレを申し出たい者及び気分が悪くなった者等は，手を挙げて監督者の指示を受けてください。
- (5) 受験票を忘れたとき又は紛失したときは，直ちに**各学部受付場所**に申し出て指示を受けてください。
- (6) 弁当及び飲み物は，各自持参してください。
- (7) **受験できなくなった場合は，試験日の前日までに学務部入試課まで連絡してください。**
- (8) 受験票は，合格者発表後の入学手続の際に必要なので保管しておいてください。
- (9) 試験開始後30分以上遅刻した者は入室できません。また，試験途中での退室は認めません。
- (10) 面接では，受付入室から退室解散までの所要時間が多少長くなることもあるので，その心づもりでいてください。

7 理工学部への推薦に際しての留意点

(1) 推薦入試制度（推薦入試Ⅰ）の特色と推薦の要件

本学部において実施する推薦入試制度（推薦入試Ⅰ）の特色は，大学入試センター試験を免除して，高等学校から提出される書類並びに小論文及び面接（口頭試問を含みます。）によって合否を判定するところにあります。

本制度は，次のいずれかの項に該当する人物・成績ともに優れた生徒が推薦により入学できる制度です。

ア 情報系の科及び総合学科の優秀な生徒

大学での修学に意欲を燃やす優秀な生徒に対して2人の定員枠を確保しており，推薦入試の方法によって入学の道を開き，その優れた素質を伸ばすことを目的としています。

イ 工業系の科及び総合学科の優秀な生徒

大学での修学に意欲を燃やす優秀な生徒に対して各学科2～5人の定員枠を確保しており，推薦入試の方法によって入学の道を開き，その優れた素質を伸ばすことを目的としています。

ウ 普通科，理数科及び総合学科の優秀な生徒

大学での勉学意欲に燃えている生徒，科学的探究心の旺盛な生徒，積極性に富み，個性豊かな高校生が学力選抜試験に煩わされることなく伸び伸びと高校生活を送った上で本学に入学されることを最大の眼目としています。志望学科の分野に熱意があり，次に示す項目のいずれかに該当する者で，大学において優秀な成績を修め得る素質を有すると高等学校長が判断した生徒を推薦してください。

- (ア) 学業成績が優秀であり，特に数学，理科に傑出した成績を有する者
- (イ) 科学的探究心が旺盛で，自然現象の観察記録等に優れた実績を有する者
- (ウ) 個性豊かで，積極性に富み，高等学校長が特に推薦に価すると判断する者

(2) 推薦方法

推薦に必要な書類は，次のとおりです。

ア 調査書

イ 推薦書（本学指定様式）

ウ 参考資料（推薦の要件(1)のウの(イ)又は(ウ)で推薦する場合は，**その実績を示す資料等を提出してください。**）

8 佐賀大学生協からのお知らせ

(1) 受験者の宿泊斡旋は行いません。

宿泊を必要とする場合は，次のところに照会すると便利です。

なお，この他，宿泊斡旋を行うところもあります。

●JTB コンベンションサポートセンター

〒810-0072 福岡市中央区長浜1-1-35 新KBCビル6F 電話092-751-2102

営業時間は月～金曜日の9:30～17:30（土日祝日は休み）

※詳細は同封の「佐賀大学生協からの受験宿泊・交通のご案内」を参照ください。

●日本旅行佐賀支店

〒840-0816 佐賀市駅南本町3-7 電話0952-24-2218

営業時間は月～金曜日の9:30～17:30（土日祝日は休み）

(2) アパート・マンション等の紹介，教科書教材等の資料請求について

合格者へのアパート・マンション等の紹介は，佐賀大学生協同組合（以下，佐賀大学生協と略す）や周辺不動産業者が行っています。受験時に資料請求案内を配布しますが，早めの資料請求予約，問合せは以下までお願いします。教科書，教材等の案内も平成28年3月初旬に佐賀大学生協から送付致します。

佐賀大学生協同組合 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学キャンパス内

電話（代表）0952-25-4450 月曜～金曜10:00～17:00

<http://kyushu.seikyoku.ne.jp/scoop/>

「佐賀大学生協」で検索下さい。

9 入学志願票等の記入上の注意及び記入例

- (1) 志願票の記入に当たっては、募集要項を熟読の上、下記の「記入例」に従い記入してください。
- (2) 学科のコード番号を記入する欄は「電算処理コード表 (54ページ)」を参照し、正確に記入してください。
- (3) すべての書類の記入に当たっては、ペン（黒）又はボールペン（黒）を用い、文字及び数字（算用数字）はていねいに記入してください。
- (4) ※印欄は、記入しないでください。

(記入例)

「氏名」の欄

フリガナ (カタカナ)	サカハ	マナブ																		
漢字氏名	佐	賀	学																	

- 氏名の欄は、左づめで記入してください。
 - 常用漢字で記入してください。
(JIS漢字コードの第1・第2水準以外の文字を含む場合、その文字が置き換えられることがあります)
- 【置き換えられる文字の例】
- 高 → 高 崎 → 崎 桑 → 桑
 土 → 土 吉 → 吉 原 → 原

「性別」及び「生年月日」の欄

性別	生 年 月 日				
男 女	昭和	平成	年	月	日
① 2	S	H	0 9	0 8	2 3

- 性別及び生年月日欄は、該当するコード番号の数字を○で囲んでください。
- 生年月日欄は、昭和・平成の該当するコード（S又はH）を○で囲み、生年月日は、1ケタの場合は右づめとし、前1コマに「0」を記入してください。なお、平成元年は、01と記入してください。

「志望学部」及び「志望学科」の欄

〔推薦入試Ⅰ〕 (経済学部の例) (医学部看護学科の例) (理工学部の例) (農学部の例)

志望学部	志望学科		志望学科		志望学科		志望学科	
経済学部 医学部 理工学部 農学部	経済 学科		看護 学科		機械システムI 学科		応用生物科 学科	
② 5 3 4	0	1	0	2	0	5	0	1

〔推薦入試Ⅱ〕 (医学部医学科の例) (理工学部の例)

志望学部	志望学科		志望学科	
医学部 理工学部	医 学科		電気電子工 学科	
③ 3	0	1	0	6

- 志望学部のコード番号の数字を○で囲んでください。
- 志望の学科名と、「電算処理コード表 (54ページ)」により、該当する学科のコード番号の数字を1コマ1ケタずつ、正確に記入してください。

「かささぎ奨学金希望」の欄

かささぎ奨学金 希 望 欄	
希望する	希望しない
①	2

- かささぎ奨学金 (58ページ参照) の希望の有無について該当する番号に○印を付してください。

「出願資格」の欄

出身学校所在地及び出身学校名										出 願 資 格											
佐賀 都道 国立 (公立) 府(県) 私立 佐賀 高等学校										高 等 学 校											
										課 程			学 科							卒業見込み卒業の別	
										全 日 制	定 時 制	通 信 制	普 通 科	理 数 科	農 業 科	工 業 科	商 業 科	総 合 学 科	1 ～ 6 以 外 の 学 科	卒 業 見 込 み	卒 業
高等学校 等コード	4	/	/	2	3	A	①	2	3	①	2	3	4	5	6	7	①	2			

- 「出身学校所在地及び出身学校名」欄に所要事項を記入し、該当事項を○で囲んでください。
- 「高等学校等コード」欄に「平成28年度大学入学者選抜大学入試センター試験受験案内」の「高等学校等コード表」により、該当するコード番号を記入してください。
- 「高等学校」欄の該当する事項のコード番号の数字を○で囲んでください。
ただし、「卒業見込み」の者は、卒業年は記入しないでください。

「現住所及び連絡先等」の欄

- 本学から出願書類等について連絡する場合がありますので、正確に書いてください。
なお、出願後、この欄に変更があった場合には直ちに電話により連絡するとともに、ハガキ等書面でもお知らせください。

[連絡先] 〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課
(電話) 0952-28-8178

「住所届」

- 合格通知書は、これに記載された現住所に送付しますので、正確に書いてください。
なお、出願後、住所に変更があった場合には直ちに電話により連絡するとともに、ハガキ等書面でもお知らせください。

電算処理コード表

《学部コード》

学 部	コード
経 済 学 部	2
医 学 部	5
理 工 学 部	3
農 学 部	4

《学科コード》

学 部	学 科	コード
経 済 学 部	経 済 学 科	01
	経 営 学 科	02
	経 済 法 学 科	03
医 学 部	医 学 科	01
	看 護 学 科	02
理 工 学 部	知能情報システム学科	03
	機能物質化学科	04
	機械システム工学科	05
	電気電子工学科	06
	都 市 工 学 科	07
農 学 部	応用生物科学科	01
	生物環境科学科	02
	生命機能科学科	03

10 請求により本人に開示される個人情報

開示種類	平成28年度入学試験成績（簡易書留で郵送）及び調査書（閲覧のみ）
申請期間	平成28年5月2日(月)～平成28年5月31日(火)まで（必着）
受付時間	9：00～17：00（土曜，日曜，祝日を除きます。）
申請者	受験者本人に限ります。
申請方法	下記方法により，本学所定の申請書に必要事項を記入の上，申請してください。 なお，電話及び代理人による申請は認めません。 1 直接来学（学務部入試課で受け付けます。） 2 郵送
申請書の請求	申請書は入試関係 web (http://www.sao.saga-u.ac.jp/) から取得できます。 web から申請書を取得できない方は，本学あての封筒の表面に，「入試情報開示申請書請求」と朱書きし，返信用封筒（郵送先を明記し82円分の切手を貼付したもの）を同封の上，学務部入試課に請求してください。申請書の請求は，代理人でも可能です。
申請に際し必要なもの	1 本学受験票 ・紛失の際は，写真入りの公的身分証明書等を持参してください。その際も受験番号は明確にする必要があります。なお，受験票は，成績郵送の際等にお返しいたします。 2 返信用封筒（長形3号の封筒に392円分の切手を貼ったもの） ・調査書のみの開示請求については，不要です。 3 印鑑（申請書に押印）
開示内容	当該年度のみ開示します。 ○入学試験成績（受験者本人へ簡易書留で郵送） ・小論文，実技検査及び面接等を得点又は段階評価で開示 医学部は，合格者に総点を，不合格者に合格最低点との得点差をランク別に開示します。なお，第1次選考不合格者には開示していません。 ○調査書（閲覧のみ） ・窓口で閲覧となります。（ただし「指導上参考となる諸事項」と「備考欄」は非開示）
開示手続期間	申請受付から発送まで，3週間程度かかりますので御了承ください。

11 個人情報の取扱いについて

独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律の施行に伴い，入学志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については，入学者選抜に係る業務（統計処理などの付随する業務を含む。）以外に，教育目的等（入学科・授業料免除，（入学科徴収猶予）及び奨学金等を含む。）に利用します。

国公立大学の一般入試における合格決定業務を円滑に行うため，受験者氏名及び大学入試センター試験の受験番号に限り，推薦入試の合格及び入学手続き等に関する個人情報が，独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達されることをあらかじめお知らせします。

本学が取得した個人情報は，「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」第9条に規定されている場合を除き，出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供する事はありません。

12 入学後のコース

学 部	学科・課程	入学後の所属	備 考
理 工 学 部	機能物質化学科	物質化学コース	入学して1年後にそれぞれのコースに分かれます。
		機能材料化学コース	
	都市工学科	都市環境基盤コース	入学して1年半後にそれぞれのコースに分かれます。
		建築・都市デザインコース	
農 学 部	生物環境科学科	生物環境保全学コース	入学して1年後にそれぞれのコースに分かれます。
		資源循環生産学コース	
		地域社会開発学コース	

13 過去3ヶ年の志願者等状況

学部、学科、課程等		対象となる 高等学校の科	平成25年度					平成26年度					平成27年度					
			募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	
経済学部	経済学科	商業系の科・ 情報系の科 及び総合学科	10	16	16	12	12	10	9	9	8	8	10	13	13	11	11	
	経営学科		20	22	22	20	20	20	34	34	23	23	20	27	27	20	20	
	経済学科	普通科又はこれに 準ずると本学部が認める科	10	27	27	10	10	10	19	18	11	11	10	30	30	11	11	
	経営学科		10	15	15	11	11	10	13	13	8	8	10	22	22	10	10	
	経済法学科		10	19	19	10	10	10	16	16	10	10	10	19	19	8	8	
小 計			60	99	99	63	63	60	91	90	60	60	60	111	111	60	60	
医学部	医学科	一般枠	20	38	38	20	20	20	60	60	20	20	20	59	59	20	20	
		佐賀県枠	全科	23	48	48	23	23	23	56	56	23	23	23	52	52	23	23
		長崎県枠	-	-	-	-	-	1	1	1	0	0	1	4	4	1	1	
	看護学科	全科(注)	20	72 (1)	72 (1)	21 (0)	21 (0)	20	83 (3)	83 (3)	20 (1)	20 (1)	20	62 (2)	62 (2)	21 (0)	21 (0)	
	小 計			63	158	158	64	64	64	200	200	63	63	64	177	177	65	65
理工学部	知能情報システム学科	推薦入試Ⅰ 情報系の科・ 総合学科	2	6	6	4	4	2	7	7	3	3	2	6	6	3	3	
		推薦入試Ⅱ 全科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	12	12	4	4	
	機能物質化学科	推薦入試Ⅰ 工業系の科・ 総合学科	2	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2	2	2	1	1	
		推薦入試Ⅱ 普通科・理数 科・総合学科	10	28	28	10	10	10	21	21	10	10	-	-	-	-	-	
	機械システム工学科	推薦入試Ⅰ 機械系の科・ 総合学科	5	8	8	5	5	5	12	12	5	5	5	5	5	5	5	
		推薦入試Ⅱ 全科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	17	16	5	5	
	電気電子工学科	推薦入試Ⅰ 電気・電子・ 情報系の科・ 総合学科	4	7	7	4	4	4	18	18	4	4	4	7	7	4	4	
		推薦入試Ⅱ 全科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	7	7	2	2	
	都市工学科	推薦入試Ⅰ 土木・建築系 の科・総合学 科	4	8	7	4	4	4	4	4	4	4	4	7	7	4	4	
			10	34	34	10	10	10	38	38	10	10	10	28	28	12	12	
小 計			37	93	92	39	39	37	103	103	38	38	54	108	107	43	43	
農学部	応用生物科学科	専門系の科・ 総合学科	3	7	7	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	
		専門系の科を 除く全科	7	17	17	7	7	7	27	27	7	7	7	31	31	8	8	
	生物環境科学科	専門系の科・ 総合学科	3	5	5	3	3	3	2	2	1	1	3	6	6	3	3	
		専門系の科を 除く全科	12	22	22	13	13	12	22	21	12	12	12	19	19	12	12	
	生命機能科学科	専門系の科・ 総合学科	1	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	
専門系の科を 除く全科		4	19	19	4	4	4	9	9	4	4	4	19	19	4	4		
小 計			30	74	74	31	31	30	64	63	28	28	30	80	80	30	30	
合 計			190	424	423	197	197	191	458	456	189	189	208	476	475	198	198	

※医学部医学科の長崎県枠は平成26年度から募集しました。

(注) 医学部看護学科の募集人員のうち2人以内を、専門系の科及び総合学科から募集します。その実績を()内で内数としています。

14 佐賀大学予約型奨学金（かささぎ奨学金）について

本奨学金は、本学に強く入学を希望する学業優秀な者について、入学前の申請により入学試験合格後の奨学金受給を約束（予約型）するとともに、一定の条件の下に在学期間中も支援を継続することにより、愛校心に溢れた優れた人材を育成することを目的としたものです。

(1) 申請資格

次の条件の全てを満たす者

- ① 日本の高等学校若しくは中等教育学校を平成27年度に卒業見込みの者及び平成26年度中に卒業した者
- ② 推薦入試を志願し、平成28年4月に本学に入学する予定の者で、本学に強く入学を希望する者
- ③ 本学入学後に奨学金の受給を希望する者

(2) 奨学金額

年額30万円（返還の必要はありません。）

(3) 給付期間

4年間（医学部医学科は6年間の継続支給）

※各学年の終期に学業成績、修学状況等による継続判定があります。

(4) 採用予定者数

6名程度（芸術地域デザイン学部（設置予定）及び教育学部（改組予定）を含みます。）

(5) 申請方法等

推薦入試志願者については、推薦入試出願時に志願票のかささぎ奨学金希望欄の該当する番号に○印を付して申請してください。

(6) 採用候補者の選考・決定

申請資格を満たしている申請者を対象に、入試成績により選考し決定します。

選考結果は、佐賀大学ホームページに選考状況を掲載し採用候補者に対し2月中旬までに本人宛に通知します。

奨学生の内定を受けた方は、本学入学後に奨学生採用手続きをとることにより正式に採用が決定します。

(7) 奨学金授与式

大学入学後、奨学生採用者に別途お知らせします。

(8) その他

- ① 本奨学金の申請・選考は、入学試験の合否に全く影響しません。
- ② 本奨学金の申請に係る個人情報は、奨学金業務に限定し利用するものであって、その他の目的に使用することは一切ありません。

[連絡先]

佐賀大学学務部学生生活課

(電話) 0952-28-8172 (FAX) 0952-28-8948

推 薦 書

平成 年 月 日

佐賀大学経済学部長 殿

学 校 名

学校長名

印

下記の者は、本校在学中の成績が優秀で人物に優れており、貴学部が定める入学者受入れの方針の「求める学生像」に合致する人物ですので、出願要件にしたがって責任をもって推薦いたします。

記

志 望 学 科 名	
志 願 者 氏 名	

【推薦の理由】（裏面の記入上の注意点をよく読んで記述してください）

【入学者受入れ方針の理解】

（チェック欄： ）志望学科の「入学者受入れの方針」を志願者に読ませて理解させました

成 績 順 位	学 年			備 考
	第 1 学 年	人 中	位	
	第 2 学 年	人 中	位	
	第 3 学 年	人 中	位	
専門教育に関する科目の合計単位数				単位（商業系の科・情報系の科・総合学科のみ）
記載責任者（職）氏名				印

【推薦要件】（普通科又はこれに準ずると本学部が認める科のみ）

次のいずれかで推薦するか、（ ）内に○をつけてください。

- （ ）① 成績優秀の者（外国語については評定平均4.3以上とします。）
- （ ）② 社会事象についての分析や、社会的活動等において優れた実績があり、それを裏付ける資料がある者（ただし、この実績については証明する資料を添付してください。）
- （ ）③ 個性的で積極性に富み、高等学校長が大学生活においてその能力を十分に発揮できると評価し、推薦に価すると思われる者

【資格取得状況】（商業系の科・情報系の科・総合学科のみ）

		検定と資格（級を記入してください。級の無いものは合格としてください。）																
		簿記				情報				英語				商業経済				
資格取得状況	検定・資格	日商	全経	全商			全商 プログラミング	全商 ビジネス情報	全商 I Tパスポート			全商 実用英語技能検定			全商 日商販売士	全商 全商商業経済		
	級・合格																	

推薦書記入上の注意

【推薦の理由】

経済学部が定める入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）の「求める学生像」を踏まえ、志願者の特にアピールしたい点を推薦理由として記入してください。なお、志願者の人物、課外活動、生活態度等については、調査書における「指導上参考となる諸事項」「特別活動の記録」「備考」などの項目欄に具体的に記述するようにしてください。

【入学者受入れの方針の理解】

各学部が定める入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を『佐賀大学学生募集要項』に掲載しています。志願者には、「志望学科が求める学生像」と「志望学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み」を読ませ、その内容を理解させてください。志願者が理解したと判断できたら、□にチェックを入れてください。

【成績順位】

商業高等学校の場合は、各学年ごとの学年全体での成績順位（何人中何位）を記入してください。カリキュラム上学年全体での成績順位を記入するのが不可能な場合は、各科での成績順位を記入してください（コースごと等のみの順位による推薦はできません）。商業高等学校以外の高等学校では、3か年にわたる学年ごとの同一課程（同一科）内での成績順位（何人中何位）を記入してください。なお、学年全体の順位で記入できない、第3学年の順位が調査書と異なる場合等は、備考欄に理由を記入してください。

【専門教育に関する科目の合計単位数】（商業系の科・情報系の科・総合学科のみ）

平成28年3月までに取得予定の専門教育に関する科目の合計単位数を記入してください。

【推薦要件】（普通科又はこれに準ずると本学部が認める科のみ）

いずれかの推薦要件で推薦するか推薦要件欄の（ ）内に○をつけてください。

【資格取得状況】（商業系の科・情報系の科・総合学科のみ）

在学中に取得した検定の級または合格状況を記入してください。

【推薦書の作成について】

ワープロ等で記入する場合、本学ホームページ（<http://www.sao.saga-u.ac.jp/>）に推薦書様式を掲載していますのでご利用ください。ただし、様式の改変は認めません。

推薦書

佐賀大学医学部長 殿

平成 年 月 日

学校名

学校長名

印

下記の者は、本校在学中の成績が優秀で人物に優れており、貴学部が定める入学者受入れの方針の「求める学生像」に合致する人物ですので、出願要件にしたがって責任をもって推薦いたします。

記

志望学科名	
-------	--

志願者氏名	
-------	--

【推薦の理由】(300字程度で記入してください)

【入学者受入れ方針の理解】

志望学科の「入学者受入れの方針」を志願者に読ませて理解させました (理解させた場合、
チェックしてください)

成績 順位	学 年			備 考
	第 1 学 年	人 中	位	
	第 2 学 年	人 中	位	
	第 3 学 年	人 中	位	

専門教育に関する科目の合計単位数 単位 (専門系の科及び総合学科のみ)

記載責任者(職)氏名

印

※裏面の注意事項をよく読んで記述してください。

医学科へ推薦する場合は、いずれかの推薦枠を選択し、を記入してください。

一般枠 佐賀県枠 長崎県枠

【人 物】(300字程度で記入してください)

【特別活動・各種役員等】

【生活状況・その他】

推薦書記入上の注意

本学は、医学科においては、「医学、医療の実践において、強い生命倫理観と広い社会的視野により問題を総合的にとらえ、その解決を科学的・創造的に行う医師・研究者の育成」、また、看護学科においては、「高い倫理観に基づき健康についての問題を包括的にとらえ、柔軟に解決する実践能力を持った看護職者の育成」を教育目的としております。

ついては、本学のこのような教育目的をご理解の上、将来有為な医師・看護職者となるにふさわしい優れた適性と能力を有する生徒を推薦していただきたいと思えます。推薦書の記入にあたっては、単に「まじめである」、「よく活動する」というような概評ではなく、具体的事実を挙げて記入してください。また、この推薦書は、選考の際の重要な資料となる事にご留意ください。

【推薦の理由】

本人を推薦される根拠及び医学または看護学を学ぶ能力と適性があると認められる理由等をわかり易く記入してください。

授業中の態度、勉学の自発性・計画性・持続性、理解力並びに得意、不得意科目等につき具体的事実を挙げて記入してください。

【入学者受入れの方針の理解】

各学部が定める入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を『佐賀大学学生募集要項』に掲載しています。志望者には、「志望学科が求める学生像」と「志望学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み」を読ませ、その内容を理解させてください。志望者が理解したと判断できたら、にチェックを入れてください。

【成績順位】

3か年にわたる学年ごとの同一課程（同一科）内での成績順位（何人中何位）を記入してください。学年全体の順位で記入できない、第3学年の順位が調査書と異なる場合等は、備考欄に理由を記入してください。

【専門教育に関する科目の合計単位数】（専門系の科および総合学科のみ）

平成28年3月までに取得予定の専門教育に関する科目の合計単位数を記入してください。

【希望の推薦枠】（医学科希望者のみ記入）

いずれの推薦枠で推薦するか内にを記入ください。

【人 物】（300字程度で記入してください。）

調査書の「指導上参考となる諸事項」欄と重複しないよう具体的にかつ詳細に記入してください。

【特別活動・各種役員等】

下記の項目について、記入してください。

- (1) 各学年ごとのホームルームにおいて、役員をしたことがあれば、その役員名とそこでの活動状況
- (2) 全校的な役員をしたことがあれば、その学年、役員名とそこでの活動状況
- (3) 所属クラブ名とそこでの活動状況
- (4) 校外での活動があれば、加入団体名とそこでの活動状況
- (5) その他特記すべきことなど

【生活状況・その他】

下記の項目について、記入してください。

- (1) 本人の趣味・特技・生活態度等
- (2) その他、本人についての特記すべき事項

【推薦書様式の作成について】

表（おもて）の様式に準じた様式でかつ、必要な項目が記入されていれば、ワープロ等で記入・作成していただいて構いません。また、本学ホームページ上に推薦書様式を掲載していますので、下記アドレスにアクセスし、ダウンロードしてご利用されても構いません。ただし、所定の様式と同一の規格（A3判）とし、様式の改変は認めません。

<http://www.sao.saga-u.ac.jp/>

* 記載事項と事実が相違していることが判明した場合は、入学を取り消すことがあります。

推 薦 書

平成 年 月 日

佐賀大学理工学部長 殿

学 校 名

学校長名

印

下記の者は、本校在学中の成績が優秀で人物に優れており、貴学部が定める入学者受入れの方針の「求める学生像」に合致する人物ですので、出願要件にしたがって責任をもって推薦いたします。

記

志 望 学 科 名	
志 願 者 氏 名	

【推薦の理由】（裏面の記入上の注意点をよく読んで記述してください）

【入学者受入れ方針の理解】

（チェック欄： ）志望学科の「入学者受入れの方針」を志願者に読ませて理解させました

成 績 順 位	学 年			備 考
	第 1 学 年	人 中	位	
第 2 学 年	人 中	位		
第 3 学 年	人 中	位		
専門教育に関する科目の合計単位数				単位（専門系の科及び総合学科のみ）
記載責任者（職）氏名				印

推薦書記入上の注意

【推薦の理由】

理工学部が定める入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）の「求める学生像」を踏まえ、志願者の特にアピールしたい点を推薦理由として記入してください。

なお、志願者の人物、課外活動、生活態度等については、調査書における「指導上参考となる諸事項」「特別活動の記録」「備考」などの項目欄に具体的に記述するようにしてください。

【入学者受入れの方針の理解】

各学部が定める入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を『佐賀大学学生募集要項』に掲載しています。志願者には、「志望学科が求める学生像」と「志望学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み」を読ませ、その内容を理解させてください。志願者が理解したと判断できたら、にチェックを入れてください。

【成績順位】

3か年にわたる学年ごとの同一課程（同一科）内での成績順位（何人中何位）を記入してください。学年全体の順位で記入できない、第3学年の順位が調査書と異なる場合等は、備考欄に理由を記入してください。

【専門教育に関する科目の合計単位数】（専門系の科および総合学科のみ）

平成28年3月までに取得予定の専門教育に関する科目の合計単位数を記入してください。

【推薦書の作成について】

ワープロ等で作成する場合、本学ホームページ（<http://www.sao.saga-u.ac.jp/>）に推薦書様式を掲載していますのでご利用ください。ただし、様式の改変は認めません。

推 薦 書

平成 年 月 日

佐賀大学農学部長 殿

学 校 名

学校長名

印

下記の者は、本校在学中の成績が優秀で人物に優れており、貴学部が定める入学者受入れの方針の「求める学生像」に合致する人物ですので、出願要件にしたがって責任をもって推薦いたします。

記

志 望 学 科 名	
志 願 者 氏 名	

【推薦の理由】（裏面の記入上の注意点をよく読んで記述してください）

【入学者受入れ方針の理解】

（チェック欄： ）志望学科の「入学者受入れの方針」を志願者に読ませて理解させました

成 績 順 位	学 年			備 考
	第 1 学 年	人 中	位	
	第 2 学 年	人 中	位	
	第 3 学 年	人 中	位	
専門教育に関する科目の合計単位数				単位（専門系の科及び総合学科のみ）
記載責任者（職）氏名				印

該当するものにチェックをしてください（募集要項28ページを参照）

- 高等学校の専門系の科及び総合学科の対象者
- 高等学校の全科（専門系の科を除きます）の対象者

推薦書記入上の注意

【推薦の理由】

農学部が定める入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）の「求める学生像」を踏まえ、志願者の特にアピールしたい点を推薦理由として記入してください。

なお、志願者の人物、課外活動、生活態度等については、調査書における「指導上参考となる諸事項」「特別活動の記録」「備考」などの項目欄に具体的に記述するようにしてください。

【入学者受入れの方針の理解】

各学部が定める入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を『佐賀大学学生募集要項』に掲載しています。志願者には、「志望学科が求める学生像」と「志望学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み」を読ませ、その内容を理解させてください。志願者が理解したと判断できたら、にチェックを入れてください。

【成績順位】

3か年にわたる学年ごとの同一課程（同一科）内での成績順位（何人中何位）を記入してください。学年全体の順位で記入できない、第3学年の順位が調査書と異なる場合等は、備考欄に理由を記入してください。

【専門教育に関する科目の合計単位数】（専門系の科および総合学科のみ）

平成28年3月までに取得予定の専門教育に関する科目の合計単位数を記入してください。

【推薦書の作成について】

ワープロ等で作成する場合、本学ホームページ（<http://www.sao.saga-u.ac.jp/>）に推薦書様式を掲載していますのでご利用ください。ただし、様式の改変は認めません。

* 受験番号	
--------	--

確 約 書

私は、平成28年度推薦入試Ⅱ（佐賀県枠）において最終合格した場合は、確実に佐賀大学医学部医学科に入学いたします。

また、大学卒業後は、佐賀県内の基幹型臨床研修病院において、初期臨床研修(2年)を行うことを確約いたします。

平成 年 月 日

志願者氏名（自署） _____

佐賀大学長 殿

* 受験番号	
--------	--

確 約 書

私は、平成28年度推薦入試Ⅱ（長崎県枠）において最終合格した場合は、確実に佐賀大学医学部医学科に入学いたします。

また、入学後は「長崎県医学修学資金」の貸与を受け、大学卒業後は、長崎県が指定する長崎県内の医療機関等で診療に従事することを確約いたします。

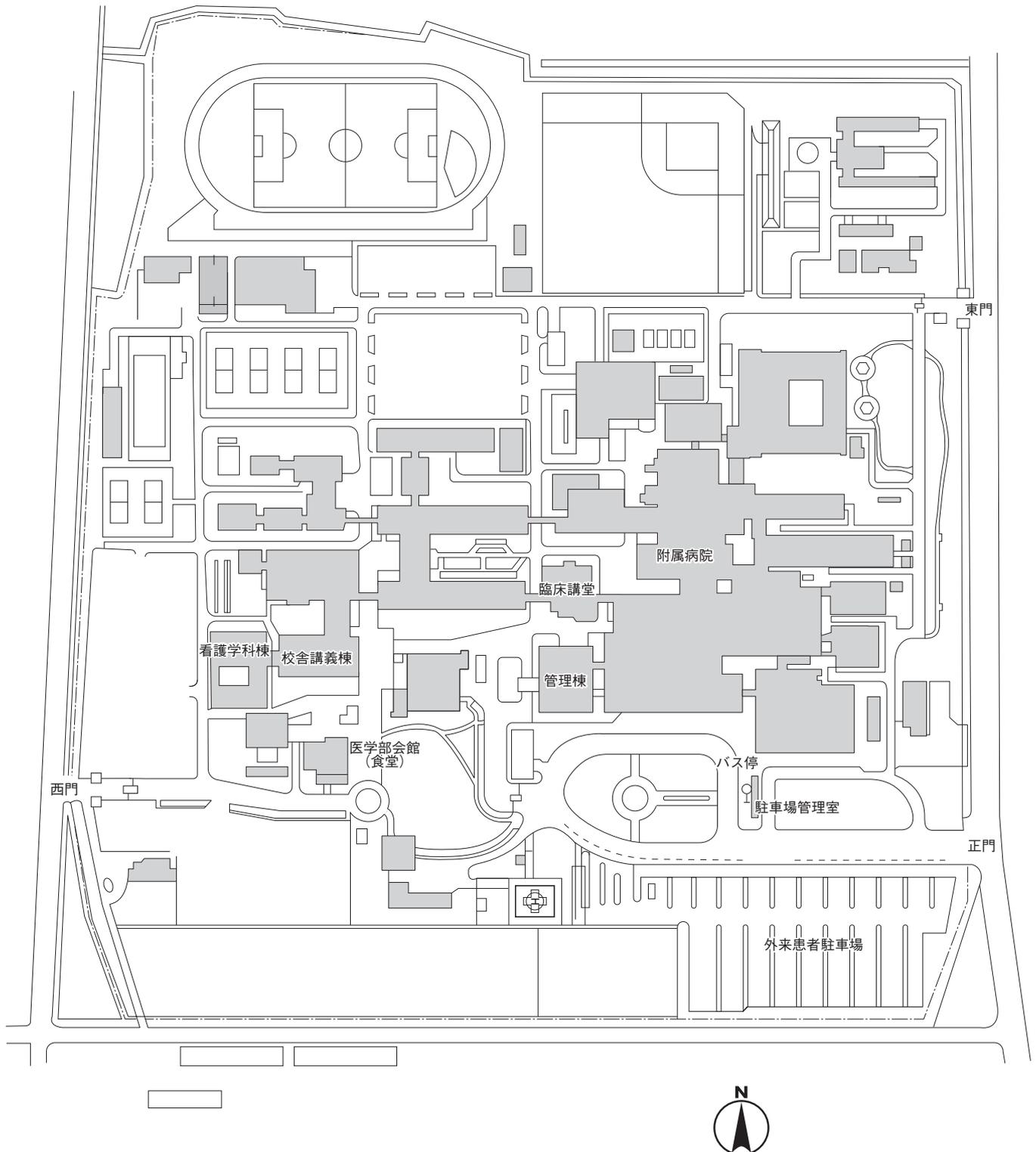
平成 年 月 日

志願者氏名（自署） _____

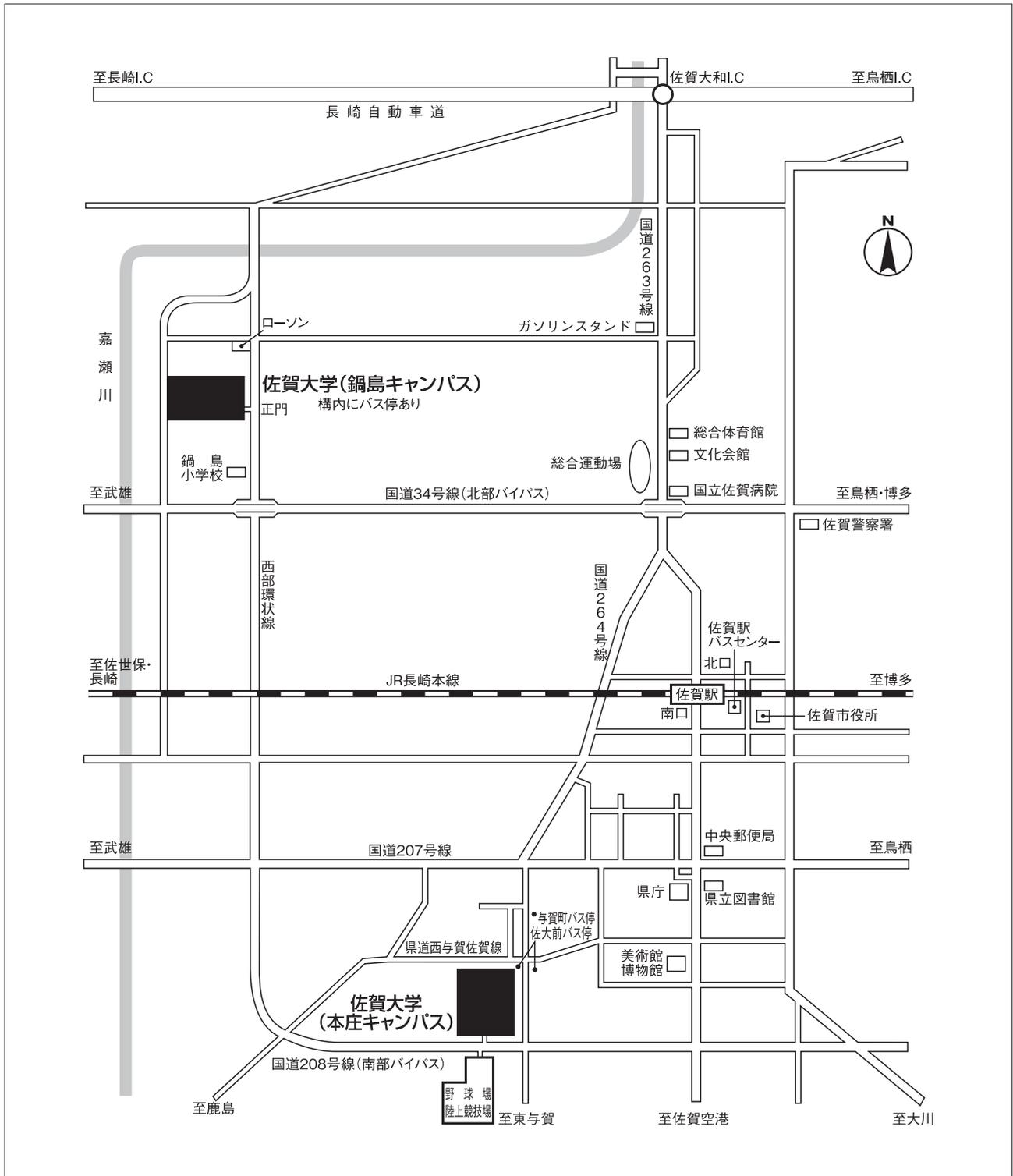
佐賀大学長 殿

佐賀大学（鍋島キャンパス）配置図

[医学部]



佐賀市内略図



佐賀大学（本庄キャンパス）への交通機関案内

- (1) 佐賀駅バスセンター4番のりばから市営バス佐賀大学・西与賀線・11番, 佐賀大学・東与賀線・12番, 佐賀女子短大・高校線・63番で約15分, 「佐大前」下車
- (2) 佐賀駅からタクシーで約10分

佐賀大学（鍋島キャンパス）への交通機関案内

- (1) 佐賀駅バスセンター2番のりばから市営バス佐賀大学病院線（神野公園, 鍋島小学校経由・50番）で約25分, 終点「佐賀大学病院」下車
- (2) 佐賀駅からタクシーで約20分

佐賀大学 学務部 入試課

TEL 0952-28-8178

ホームページ <http://www.saga-u.ac.jp/>

e - m a i l contact@mail.admin.saga-u.ac.jp